

武蔵野北高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 国語 科目 文学国語			
教 科： 国語	科 目： 文学国語	単位数： 2	単位
対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組			
使用教科書： 高等学校 文学国語（筑摩書房）			
教科 国語	の目標：		
【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。		
【思考力、判断力、表現力等】	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。		
【学びに向かう力、人間性等】	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたる国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		

科目 文学国語	の目標：		
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】	
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めてたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
	「小説とは何か」（二島由紀夫） 【知識及び技能】・「小説とは何か」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。・「小説とは何か」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かする。・「小説とは何か」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深める。・「小説とは何か」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使う。・「小説とは何か」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。・「小説とは何か」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。【思考力、判断力、表現力等】・「小説とは何か」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。・「小説とは何か」と他の作品を比較するなどして、文体の特徴や効果について考察する。・「小説とは何か」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する。・「小説とは何か」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。【学びに向かう力、人間性等】・教材の内容に関心をもち、発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深める。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。	①架空の物語である「小説」が、読み手に実体験のような感銘をあたえるのはなぜか、筆者の主張を踏まえて考える。②筆者の述べる「小説」の定義を50字以内でまとめる。③「遠野物語」を読んで、800字程度で感想をまとめる。	○			【知識及び技能】・「小説とは何か」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「小説とは何か」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「小説とは何か」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。・「小説とは何か」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「小説とは何か」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・「小説とは何か」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力、判断力、表現力等】・「小説とは何か」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「小説とは何か」と他の作品を比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。・「小説とは何か」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「小説とは何か」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。【学びに向かう力、人間性等】・教材の内容に関心をもち、発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	6
	「陰影礼賛」（谷崎潤一郎） 【知識及び技能】・「陰影礼賛」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。・「陰影礼賛」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かする。・「陰影礼賛」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深める。・「陰影礼賛」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使う。・「陰影礼賛」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。・「陰影礼賛」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。【思考力、判断力、表現力等】・「陰影礼賛」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。・「陰影礼賛」と他の作品を比較するなどして、文体の特徴や効果について考察する。・「陰影礼賛」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する。・「陰影礼賛」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。【学びに向かう力、人間性等】・教材の内容に関心をもち、発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深める。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。	①日常生活に潜む「陰翳」の効果について、どのような表現が用いられているか整理し、筆者の美意識を確認する。 ②「闇」が効果的な働きをしている日常生活の例を挙げ、筆者の「闇」に対する考え方を200字以内でまとめる。 ③他に筆者による日本文化論にはどのようなものがあるか、調べ	○			【知識及び技能】・「陰影礼賛」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「陰影礼賛」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「陰影礼賛」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。・「陰影礼賛」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「陰影礼賛」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・「陰影礼賛」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力、判断力、表現力等】・「陰影礼賛」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「陰影礼賛」と他の作品を比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。・「陰影礼賛」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「陰影礼賛」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。【学びに向かう力、人間性等】・教材の内容に関心をもち、発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	6
定期考査							○	○	○	1

1 学 期	「舞姫」（森鴎外） 【知識・技能】「舞姫」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。・「舞姫」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・「舞姫」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深める。・「舞姫」における文語体などの文体的特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら物語などを書く際に使う。・「舞姫」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。・「舞姫」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。【思考力・判断力・表現力】「舞姫」を参考に、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にする。・「舞姫」を参考に、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫する。・「舞姫」を参考に、文体的特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫する。・「舞姫」を参考に、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直す。【学びに向かう態度・人間性等】教材の内容に関心を持つ。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。・学習の見通しをもって言葉への認識を深めようとする。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとする。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整する。	①豊太郎とエリスの間に何があったのか、語りの時制や文体・時代背景なども意識して、物語を読み味わう。 ②夏目漱石「こころ」と読み比べて、「明治」という時代の特徴について話し合う。				【知識・技能】「舞姫」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「舞姫」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「舞姫」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。・「舞姫」における文語体の文体的特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら物語などを書く際に使っている。・「舞姫」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力・判断力・表現力】「舞姫」を参考に、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。・「舞姫」を参考に、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。・「舞姫」を参考に、文体的特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。・「舞姫」を参考に、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。【学びに向かう態度・人間性等】教材の内容に関心を持っている。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。							6		
	「隠れん坊の精神史」（藤田省三） 【知識・技能】「隠れん坊の精神史」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。・「隠れん坊の精神史」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・「隠れん坊の精神史」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深める。・「隠れん坊の精神史」を通して表現の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「隠れん坊の精神史」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。・「隠れん坊の精神史」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。【思考力・判断力・表現力】「隠れん坊の精神史」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。・「隠れん坊の精神史」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。・「隠れん坊の精神史」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する。・「隠れん坊の精神史」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、この評論の背景を踏まえ、作品の解釈を深める。【学びに向かう態度・人間性等】教材の内容に関心を持つ。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとする。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとする。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。	①本文を読み解いて、抽象的な表現の内容をつかみ、具体例から普遍性を引き出す論法を学ぶ。 ②「隠れん坊」や「おとぎ話」が子どもたちにとってどのような意味を持つのかについて、話し合う。 ③「隠れん坊」以外の伝統的な外遊びについて、どのようなものがあるのかを調べ、その遊びの「意味」について、600字以内で論じる。				【知識・技能】「隠れん坊の精神史」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「隠れん坊の精神史」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「隠れん坊の精神史」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。・「隠れん坊の精神史」を通して、映像メディアと文学作品の表現の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「隠れん坊の精神史」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・「隠れん坊の精神史」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力・判断力・表現力】「隠れん坊の精神史」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「隠れん坊の精神史」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。・「隠れん坊の精神史」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「隠れん坊の精神史」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、この評論の背景を踏まえ、作品の解釈を深めている。【学びに向かう態度・人間性等】教材の内容に関心を持っている。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。							6		
	定期考査														
	「藤野先生」（魯迅） 【知識・技能】「藤野先生」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「藤野先生」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「藤野先生」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。・「藤野先生」における文体的特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「藤野先生」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力・判断力・表現力】「藤野先生」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「藤野先生」の語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。・「藤野先生」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「藤野先生」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。・「藤野先生」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。【学びに向かう態度・人間性等】教材の内容に関心を持つ。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとする。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとする。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。	①本文を読み、歴史的背景や社会状況を踏まえて、物語が描く中国人留学生の「私」と日本人教師「藤野先生」の姿を理解する。 ②この作品を読んで考えたことを、800字程度の文章にまとめる。 ③魯迅と藤野先生との関係を描いた太宰治の作品「惜別」と、この作品を読み比べ、感想を発表する				【知識・技能】「藤野先生」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「藤野先生」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「藤野先生」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。・「藤野先生」における文体的特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「藤野先生」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力・判断力・表現力】「藤野先生」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「藤野先生」の語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。・「藤野先生」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「藤野先生」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。・「藤野先生」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。【学びに向かう態度・人間性等】教材の内容に関心を持っている。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。							7		

[illegible]

[illegible]

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 地理歴史 科目 地理探究

教科： 地理歴史 科目： 地理探究 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 地理探究（東京書籍）、新詳地理の研究（帝国書院）、データブックオブザワールド（二宮書店）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】	幅広い分野の視点をみにつけ現代世界を多角的に俯瞰させる。
【思考力、判断力、表現力等】	各分野の見方・考え方を習得させ、現代世界を多角的に考察させる。
【学びに向かう力、人間性等】	学習内容を自分のキャリア選択や難問解答に生かさせる。

科目 地理探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
内容知として、①現代世界に関する系統地理的教養、②現代世界に関する地誌的教養、③地形図と地域調査・防災に関する実践的教養を身につける。	方法知として難問解答につながる規模問題、経年変化問題の重要性を理解させる。	forms活用の予習・復習を確実にを行い学習習慣を身につけるとともに、授業内容を将来の自分のキャリア選択・難問解答に生かさせる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	現代世界の系統地理的考察 単元①規模問題 単元②経年変化問題 単元③大地形 単元④資源・エネルギー問題 単元⑤小地形 単元⑥気候 単元⑦その他の自然環境 単元⑧第1次産業 単元⑨食料問題 単元⑩第2次産業 単元⑪環境問題 単元⑫貿易 単元⑬交通・通信・国家群 単元⑭消費・余暇行動 単元⑮人口 単元⑯都市 単元⑰民族・領土問題 単元⑱地図 単元⑲地形図と地域調査 各単元で共通テスト問題に対応できる思考力を身につけさせる。	予習用授業動画事前視聴（30～60分）→予習用formsクイズ実施（15～30分）→授業（実線問題のアクティブラーニングによる解法習得）→復習用formsクイズによる知識定着（30分）→過去問演習（15分）→解説動画視聴（15分）すべて個人端末使用	観点① 予習用・復習用のformsクイズ、過去問演習答案より評価 観点②授業中のアクティブラーニング、過去問演習結果より評価 観点③予習・復習の提出状況等より評価	○	○	○	30
2 学 期	現代世界の地誌的考察 世界地誌 単元⑳東アジア 単元㉑東南アジア 単元㉒南アジア 単元㉓南アジア 単元㉔西アジア・中央アジア 単元㉕アフリカ 単元㉖ヨーロッパ 単元㉗ロシアと周辺諸国 単元㉘北米 単元㉙中南米 単元㉚オセアニア 単元㉛日本 各単元の共通テストに必要な内容を厳選して、反転学習を展開する	予習用授業動画事前視聴（30～60分）→予習用formsクイズ実施（15～30分）→授業（実線問題のアクティブラーニングによる解法習得）→復習用formsクイズによる知識定着（30分）→過去問演習（15分）→解説動画視聴（15分）すべて個人端末使用	観点① 予習用・復習用のformsクイズ、過去問演習答案より評価 観点②授業中のアクティブラーニング、過去問演習結果より評価 観点③予習・復習の提出状況等より評価	○	○	○	30
3 学 期	問題演習	各自過去問演習（60分）→formsで解答送信→オンデマンド動画で解説視聴（個人端末利用）→成績表でフィードバック	観点① 予習用・復習用のformsクイズ、過去問演習答案より評価 観点②授業中のアクティブラーニング、過去問演習結果より評価 観点③予習・復習の提出状況等より評価	○	○	○	10
							合計
							70

科目 政治・経済

单位数： 2 单位

6 組

)

の目標：

【知 識 及 び 技 能】	・共通テスト（公共・政治経済）に必要な知識・技能の習得を目指す。 ・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	・共通テスト（公共・政治経済）に必要な思考力・判断力等の修得を目指す。 ・主として法に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
【学びに向かう力、人間性等】	現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・共通テスト（公共・政治経済）に必要な知識・技能の習得を目指す ・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。	・共通テスト（公共・政治経済）に必要な思考力・判断力等の修得を目指す。 ・幸福、正義、公正などに着目して、主として法に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。	青年期の自己の形成 第1章 自分らしく生きる 1. 青年期とは 2. 自己形成の課題（1） 3. 自己形成の課題（2） 4. 職業生活と社会参加	【知識・技能】倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究し、自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。				
	世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させるとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考えさせる。	現代の民主政治と日本国憲法 第1章 現代国家と民主政治 1. 民主政治の成立 2. 民主政治の基本原理 3. 民主政治のしくみと課題 4. 世界の主な政治制度					
	激動する経済社会について、様々な角度から理解を深めさせ、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察させる。	現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 1. 経済主体と経済活動の意義 2. 経済社会の変容 3. 市場のしくみ 4. 市場の失敗 5. 現代の企業 6. 国民所得 7. 経済成長と国民の福祉 8. 金融の役割 9. 日本銀行の役割 10. 財政の役割と租税 11. 日本の財政の課題		○	○	○	23
	金融の意義や役割を理解させるとともに、金融政策の目的と手段について理解させる。						
	人類の福祉という観点から、科学技術はどのように利用されるべきかを考察させる。						
	情報化社会における課題を踏まえうえて、情報化社会に生きるためのモラルやルールについて、どのような規制や法整備によって調整をおこなっていくべきか考えさせる。						
	定期考査			○	○		2

2 学 期	先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。	人間としてよく生きる 1. 哲学と人間 2. 宗教と人間 3. 科学と人間 4. 自由との実現 5. 人間と幸福 6. 人間性の回復と主体性の確立 7. 他者の尊重	【知識・技能】倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究し、自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。				
	現代社会で「正義」「公正」「幸福」はいかにすれば達成されるのか、さまざまな思想家の主張を比較・考察させる。	日本人としての自觉 1. 古代日本人の思想と 仏教思想の展開 2. 外来思想の受容と日本の思想					
	議会制民主主義と権力分立について、その意義や多数決の原理と運用方法などについて理解させるとともに、民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深めさせる。	政治機構と政治参加 1. 政治機構と国会 2. 行政権と行政機能の拡大 3. 公正な裁判の保障 4. 地方自治と住民福祉 5. 政党政治 6. 選挙制度 7. 世論と政治参加					
	国際経済は、輸入品の価格や海外旅行など身近な例を挙げて解説する。	国際経済の動向と国際協力 1. 貿易と国際収支 2. 外国為替市場のしくみ 3. 第二次世界大戦後の国際経済 4. こんにちの国際経済 5. 発展途上国の諸問題 6. 経済協力と日本の役割					
	情報通信技術の発達や世界的な規制緩和により、経済のグローバル化が展開していることに注目させるとともに、地域的経済統合が進展する背景や影響について考察させる。						
	経済協力や国際的な援助の在り方について、国家間の方策だけでなく、NGOやNPOなども重要な主体となっていることを、その理由とともに考察させる。						
	定期考査						
3 学 期	共通テスト対策および私大、国公立大2次試験対策を行う。	演習					
	定期考査						
							合計
							70

【知識及び技能】	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し数学的に表現・処理する技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	問題を的確に数学的に表現し数理的に考察、過程や結論を批判的に判断する力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】	数学の活用、数学的論拠に基づく判断、問題解決の考察を深め評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅲ、数学ⅢC 演習 の目標：		
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 関数 【知識及び技能】 分数関数の定義、グラフ。分数関数のグラフと直線の共有点の座標。分数不等式。無理関数の定義、グラフを用いた不等式の解法。値域。無理関数のグラフと直線の共有点の座標。無理不等式。逆関数の定義。合成関数の定義。	・指導事項 分数関数 無理関数 逆関数と合成関数 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 分数関数の定義を理解し、グラフをかくことができるか。分数関数のグラフと直線の共有点の座標が求められるか。分数不等式を解くことができるか。無理関数の定義を理解し、グラフをかくことができるか。また、値域が求められるか。無理関数のグラフと直線の共有点の座標が求められるか。無理不等式を解くことができるか。逆関数の定義を理解し、種々の関数の逆関数を求められるか。合成関数の定義を理解し、種々の関数の合成関数を求められるか。	○	○	○	10
	【思考力、判断力、表現力等】 共有点の座標の連立方程式の実数解への読み替え。分数不等式の解。無理関数 $y=\sqrt{ax}$ のグラフは放物線の一部であること。対称移動。無理不等式の解。逆関数の定義。逆関数の定義域・値域や性質。合成関数。		【思考力、判断力、表現力等】 分数関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替えて考察できるか。分数不等式の解、分数関数のグラフから無理関数 $y=\sqrt{ax}$ のグラフを放物線の一部として理解し、対称移動の考え方で $y=-\sqrt{ax}$ などのグラフを考察できるか。無理関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替えて考察できるか。無理不等式の解を、無理関数のグラフと直線の上下関係に読み替えて考察できるか。逆関数の定義から、逆関数の定義域・値域や性質を考察できるか。2つの関数を続けて作用させた関数を、合成関数という1つの関数として考察できるか。				
	【学びに向かう力、人間性等】 関数のグラフを活用しようとする。方程式の同値変形について考察し、理解を深めようとする。方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとする。逆関数、合成関数の考え方に興味、関心を示す。		【学びに向かう力、人間性等】 方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとするか。方程式の同値変形について考察し、理解を深めようとするか。方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとするか。逆関数、合成関数の考え方に興味、関心を示すか。				
1 学 期	第2章 極限 第1節 数列の極限 【知識及び技能】 数列の収束、発散の記号、用語の理解。数列の極限が求まる。数列の収束、発散を調べる。無限等比数列の極限が求まる。無限等比数列の収束条件。漸化式で表された数列の極限値が求められる。無限級数の和の定義。無限級数の収束、発散。無限等比級数の収束条件。無限級数の和。無限級数の収束、発散を判定する条件。	・指導事項 数列の極限 無限等比数列 無限級数 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 数列の収束、発散について、記号や用語を正しく理解しているか。収束する数列の極限値の性質を理解し、それを用いて、数列の極限が求められるか。不定形を解消するように数列の式を変形することにより、数列の収束、発散を調べることができるか。無限等比数列の極限が求められるか。また、無限等比数列の収束・発散を利用して、さまざまな数列の極限が求められるか。無限等比数列の収束条件を理解し、それを利用できるか。漸化式で表された数列の一般項を求め、その極限値が求められるか。無限級数の和とは、部分和の作る数列の極限であることを理解し、無限級数の収束、発散をその部分和から調べられるか。無限等比級数の収束、発散を、公比の値で調べられるか。また、無限等比級数の収束条件を理解し、それを利用できるか。無限級数の和の性質について理解し、それを用いて無限級数の和が求められるか。無限級数の収束、発散を判定する条件を理解し、それを利用できるか。	○	○	○	13
	【思考力、判断力、表現力等】 工夫して数列の極限を求める。はさみうちの原理を用いて、極限が求まる。無限等比数列の極限を、公比の値で場合分けして求める。漸化式で表された数列の項の決まり方を、グラフを利用して視覚化することで、極限を求める。無限等比級数の収束、発散を、既習である等比数列の和の極限を求める。繰り返しを含む図形的な問題を、無限等比級数を活用して求める。循環小数が無限等比級数の形に表されることを理解し、無限等比級数の考えを用いて、循環小数を分数で表す。		【思考力、判断力、表現力等】 工夫して式変形することにより、数列の極限を求めることができるか。数列の極限が簡単に求められない場合に、数列の極限の大小関係（はさみうちの原理）を用いて、極限が求められるか。無限等比数列の極限を、公比の値で場合分けして考察できるか。漸化式で表された数列の項の決まり方を、グラフを利用して視覚化することで、極限を考察できるか。無限等比級数の収束、発散を、既習である等比数列の和の極限を調べることで考察できるか。繰り返しを含む図形的な問題を、無限等比級数を活用して考察することができるか。循環小数が無限等比級数の形に表されることを理解し、無限等比級数の考えを用いて、循環小数を分数で表すことができるか。				

	【学びに向かう力、人間性等】 簡単な無限数列の極限を、グラフなどで直観的に考察。漸化式で表された数列の極限をグラフで視覚化する方法に、興味、関心。「項を無限に加える」ということを、数学的に定義する方法を理解。繰り返しを含む図形的な問題に興味をもち、無限等比級数を利用して考察。						
1 学期	第2節 関数の極限 【知識及び技能】 用語・記号の理解。$x \rightarrow a$や$x \rightarrow \infty$、$x \rightarrow -\infty$のときの関数の極限。不定形を解消するように関数の式を変形することにより、関数の極限を調べる。関数の右側極限、左側極限による関数の極限の有無。指数関数、対数関数の極限。三角関数の極限。$\sin x/x$の極限が利用。定義に基づく、関数の連続性、不連続性を判定。閉区間で連続な関数が最大値、最小値をもつこと。	・指導事項 関数の極限 三角関数と極限 関数の連続性 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 関数の極限に関する用語・記号を正しく理解し、$x \rightarrow a$や$x \rightarrow \infty$、$x \rightarrow -\infty$のときの関数の極限を求めることができる。不定形を解消するように関数の式を変形することにより、関数の極限を調べることができる。関数の右側極限、左側極限を調べ、関数の極限の有無について調べられる。指数関数、対数関数の極限が求められる。簡単な三角関数の極限を求めることができる。$\sin x/x$の極限が利用できるように関数の式を変形することにより、三角関数を含む関数の極限を求めることができる。定義に基づいて、関数の連続性、不連続性を判定することができる。閉区間で連続な関数が最大値、最小値をもつことを理解している。				
	【思考力、判断力、表現力等】 関数と数列の極限の類似点と相違点。関数の極限をグラフなどで直観的に考察する。必要条件を求めて、その十分性をチェックする方法。はさみうちの原理を用いた極限の求め方。図形的な問題の考察。中間値の定理が成り立つための条件と、解の存在の証明への利用。		【思考力、判断力、表現力等】 関数の極限について、数列の極限における考え方との類似点と相違点を理解しているか。関数の極限について、グラフなどで直観的に考察できるか。極限値をもつ関数の係数決定に関しては、等式を成り立たせるための必要条件を求めて、その十分性をチェックすることで関数の式の係数を決定することができることを理解しているか。関数の極限が簡単に求められない場合に、関数の極限の大小関係（はさみうちの原理）を用いて、極限が求められるか。三角関数の極限を応用して、図形的な問題を考察することができるか。中間値の定理が成り立つための条件を正しく理解し、解の存在の証明に活用することができるか。	○	○	○	13
	【学びに向かう力、人間性等】 関数の極限を、グラフなどで直観的に考察しようとする。三角関数が現れる図形的な問題を、三角関数の極限を利用して考察しようとする。連続でない関数があることに興味をもち、グラフを用いてそのことを調べようとする。		【学びに向かう力、人間性等】 関数の極限を、グラフなどで直観的に考察しようとするか。三角関数が現れる図形的な問題を、三角関数の極限を利用して考察しようとするか。連続でない関数があることに興味をもち、グラフを用いてそのことを調べようとするか。				
	定期検査			○	○		1
2 学期	第3章 微分法 第1節 導関数 【知識及び技能】 微分係数の定義と図形的意味の理解。微分可能性と連続性の関係、連続ではあるが微分可能でない例。導関数の定義を理解。定義に基づく微分。導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の微分法、逆関数の微分法。種々の導関数。三角関数、対数関数、指数関数の導関数を理解し、三角関数、対数関数、指数関数を含む種々の関数の導関数を求めることができる。αが実数のとき、$(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$の成立。対数微分法の利用。第n次導関数の定義。種々の関数の第n次関数が求まる。方程式$F(x, y) = 0$を関数とみて、合成関数の導関数を利用して微分できる。曲線の媒介変数表示を理解し、媒介変数で表された関数の導関数が求められる。	・指導事項 微分係数と導関数 導関数の計算 いろいろな関数の導関数 第n次導関数 関数のいろいろな表し方と導関数 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 微分係数の定義と、その図形的意味を理解しているか。微分可能性と連続性の関係を理解し、連続ではあるが微分可能でないことを示せるか。導関数の定義を理解し、定義に基づいて微分できるか。導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の微分法、逆関数の微分法を利用して、種々の導関数を求めることができるか。三角関数、対数関数、指数関数の導関数を理解し、三角関数、対数関数、指数関数を含む種々の関数の導関数を求めることができるか。αが実数のとき、$(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$が成立することを理解しているか。対数微分法を利用して、複雑な関数を微分できるか。第n次導関数の定義とその表現方法を理解し、種々の関数の第n次関数が求められるか。方程式$F(x, y) = 0$を関数とみて、合成関数の導関数を利用して微分できるか。曲線の媒介変数表示を理解し、媒介変数で表された関数の導関数が求められるか。				
	【思考力、判断力、表現力等】 微分係数の2通りの表し方とその図形的意味。導関数は微分係数から得られる新しい関数。導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の微分法、逆関数の微分法を定義に基づいた証明。三角関数、対数関数、指数関数を含む合成関数を微分法する。自然対数の底eを考える必然性。第n次導関数を予想し求める。1つの曲線がいろいろな形で表されることを、例として方程式$F(x, y) = 0$の陰関数を上げて、その導関数を求める。 【学びに向かう力、人間性等】 さまざまな導関数の性質や公式に興味をもち、定義に基づいて証明しようとする。 $(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$において、$\alpha$の範囲を自然数、整数、有理数と拡張していく考え方に興味をもち、考察しようとする。関数の極限としての値e（自然対数の底）について興味をもち、考察しようとする。αが実数のとき$(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$が成り立つことの証明に対数微分法が利用できることに興味をもち、考察しようとする。陰関数の微分や媒介変数表示された関数の微分について、その簡便さを理解し、積極的に利用しようとする。		【思考力、判断力、表現力等】 微分係数の2通りの表し方を理解し、その図形的意味を考察できるか。導関数を、微分係数から得られる新しい関数として理解することができるか。導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の微分法、逆関数の微分法を定義に基づいて証明できるか。三角関数、対数関数、指数関数を含む関数を合成関数とみて、合成関数の微分法を利用することができるか。自然対数の底eを考える必然性を理解しているか。第2次導関数、第3次導関数を求めることで、一般の第n次導関数を予想し、求めることが方程式$F(x, y) = 0$を陰関数とみる考え方を理解しているか。1つの曲線がいろいろな形で表されることを理解し、その導関数について、 【学びに向かう力、人間性等】 さまざまな導関数の性質や公式に興味をもち、定義に基づいて証明しようとするか。$(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$において、$\alpha$の範囲を自然数、整数、有理数と拡張していく考え方に興味をもち、考察しようとするか。関数の極限としての値e（自然対数の底）について興味をもち、考察しようとするか。αが実数のとき$(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$が成り立つことの証明に対数微分法が利用できることに興味をもち、考察しようとするか。陰関数の微分や媒介変数表示された関数の微分について、その簡便さを理解し、積極的に利用しようとするか。	○	○	○	25

2 学 期	第4章 微分法的应用 第1節 導関数の应用 【知識及び技能】 微分係数の意味、接線の方程式。法線の方程式。$F(x, y)=0$で表された曲線の接線の方程式への陰関数の微分の利用。平均値の定理と、その図形的意味。平均値の定理の利用。導関数の符号と関数の増減の関係。導関数を用いた関数の増減や極値。$f(x)$が$x=a$で微分不可能な場合、増減表から$f(a)$が極値になるかの判定。極値に関する条件からの関数を決定。増減表より関数の最大値・最小値。曲線の凹凸の定義。第2次導関数の符号による曲線の凹凸が判定。変曲点。導関数、第2次導関数を用い、増減、凹凸、変曲点、漸近線などを調べて関数のグラフをかく。第2次導関数より増減表を用いない極値。導関数を用いた不等式の証明問題、方程式の実数解の個数問題。	・指導事項 接線と法線 平均値の定理 関数の値の変化 関数の最大と最小 関数のグラフ 方程式、不等式への応用 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 微分係数の意味を理解しており、接線の方程式が求められるか。公式を利用して、法線の方程式が求められるか。$F(x, y)=0$で表された曲線の接線の方程式を、陰関数の微分法を利用して求められるか。平均値の定理と、その図形的意味を理解し、具体的にcの値を求めることができるか。導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、導関数を利用して関数の増減や極値が調べられるか。$f(x)$が$x=a$で微分不可能な場合にも、増減表から$f(a)$が極値になるかどうかを判定できるか。関数の極値に関する条件から、関数を決定することができるか。導関数を利用して増減表をかくことができ、関数の最大値・最小値が求められるか。曲線の凹凸の定義を理解し、第2次導関数の符号で曲線の凹凸が判定できるか。また変曲点が求められるか。導関数、第2次導関数を利用して、増減、凹凸、変曲点、漸近線などを調べて関数のグラフをかくことができるか。第2次導関数を利用し、増減表をかかなくても極値が求められるか。導関数を利用して、不等式の証明問題、方程式の実数解の個数問題を解くことができるか。				
	【思考力、判断力、表現力等】 法線の方程式。曲線外の定点から曲線に引いた接線の方程式。共通接線をもつ条件。平均値の定理を用いた「f」不等式を証明。平均値の定理を用いて導関数の符号と関数の増減の関係を証明。$f'(a)=0$は、$f(a)$が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないこと。極値から関数を決定する際の必要十分条件。最大・最小の応用問題。関数の定義されていないところや、$x \rightarrow \pm\infty$のときの状態を調べて、関数のグラフをかく。不等式を関数の値に関する条件式に読み替える。方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸に平行な直線との共有点の個数へ読み替える 【学びに向かう力、人間性等】 方程式の重解と微分の関係についての証明に関心を持ち、考察しようとする。平均値の定理に興味を持ち、図形的意味を考察しようとする。平均値の定理の証明に興味を持ち、考察しようとする。関数の増減や極値の問題を、導関数を用いて調べ、解決しようとする。身近にある最大値・最小値の問題を、導関数を用いて調べ、解決しようとする。関数のグラフのさまざまな形に興味を持ち、これまで学んだことを利用して調べようとする。方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。		【思考力、判断力、表現力等】 接線に直交する条件と、直線の方程式の公式から、法線の方程式の公式を考えることができるか。曲線外の定点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えて、接線の方程式を求めることができるか。共通な接線をもつ条件を理解し、問題の解決に利用できるか。平均値の定理を利用して、不等式を証明できるか。平均値の定理を利用して導関数の符号と関数の増減の関係を証明する方法を理解しているか。$f'(a)=0$は、$f(a)$が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解しているか。関数の極値に関する条件から関数を決定する際に、必要十分条件に注意しているか。最大・最小の応用問題で、変数のとり方、定義域に注意しているか。関数の定義されていないところや、$x \rightarrow \pm\infty$のときの状態 【学びに向かう力、人間性等】 方程式の重解と微分の関係についての証明に関心を持ち、考察しようとするか。平均値の定理に興味を持ち、図形的意味を考察しようとするか。平均値の定理の証明に興味を持ち、考察しようとするか。関数の増減や極値の問題を、導関数を用いて調べ、解決しようとするか。身近にある最大値・最小値の問題を、導関数を用いて調べ、解決しようとするか。関数のグラフのさまざまな形に興味を持ち、これまで学んだことを利用して調べようとするか。方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとするか。	○	○	○	
	第2節 速度と近似 【知識及び技能】 ベクトルの成分を微分すると、速度ベクトル、加速度ベクトルになること。等速円運動、角速度の定義。等速円運動をしている点の速度、加速度の関係。微分係数と関数の近似式の関係。関数の1次の近似式。 【思考力、判断力、表現力等】 点の位置を表す関数の導関数が点の速度、第2次導関数が点の加速度を表すこと。等速円運動やサイクロイド運動の特徴。関数の近似式を活用して、数の近似値を求める。 【学びに向かう力、人間性等】 直線上を運動する点の速度、加速度を基にして、平面上を運動する点の速度、加速度を考察しようとする。微分係数の図形的な意味から、関数の近似式を考察しようとする。1次と2次の近似式について、興味をもって考察しようとする。	・指導事項 速度と加速度 近似式 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 ベクトルの成分を微分することによって、速度ベクトル、加速度ベクトルが求められることを理解し、実際に求めることができるか。等速円運動、角速度の定義を理解し、等速円運動をしている点の速度、加速度の関係が調べられるか。微分係数の意味を考えることで、関数の近似式を考察できるか。関数の1次の近似式を作ることができるか。 【思考力、判断力、表現力等】 導関数の意味から、点の位置を表す関数の導関数が点の速度、第2次導関数が点の加速度を表すことを理解できるか。速度、加速度を調べることで、等速円運動やサイクロイド運動の特徴を考察できるか。関数の近似式を活用して、数の近似値を求めることができるか。 【学びに向かう力、人間性等】 直線上を運動する点の速度、加速度を基にして、平面上を運動する点の速度、加速度を考察しようとするか。微分係数の図形的な意味から、関数の近似式を考察しようとするか。1次と2次の近似式について、興味をもって考察しようとするか。	○	○	○	
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第5章 積分法 第1節 不定積分 【知識及び技能】 積分定数を漏らさない。不定積分の定義や基本性質。種々の関数の不定積分。置換積分法、部分積分法の利用。部分分数分解。 【思考力、判断力、表現力等】 不定積分の基本性質が利用のための適切な変形。合成関数の微分の逆演算としての、置換積分法を理解。積の微分の逆演算としての、部分積分法を理解。被積分関数の適切に変形。 【学びに向かう力、人間性等】 積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。簡単に不定積分の計算ができないとき、変数の置換をどのようにすればよいかを考え、置換積分法を利用しようとする。簡単に不定積分の計算ができないとき、被積分関数の特徴を見て部分積分法を利用しようとする。三角関数の積を和や積に変形する公式に興味をもち、自ら証明しようとする。	・指導事項 不定積分とその基本性質 置換積分法 部分積分法 いろいろな関数の不定積分 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができるか。不定積分の定義や基本性質を理解し、それを利用して、種々の関数の不定積分が求められるか。置換積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の不定積分が求められるか。部分積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の不定積分が求められるか。分数式を部分分数に分解する方法を理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 不定積分の基本性質が利用できるよう、式を適切に変形することができるか。合成関数の微分の逆演算として、置換積分法を理解しているか。積の微分の逆演算として、部分積分法を理解しているか。被積分関数を適切に変形することで、不定積分を求めることができるか。 【学びに向かう力、人間性等】 積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。簡単に不定積分の計算ができないとき、変数の置換をどのようにすればよいかを考え、置換積分法を利用しようとする。簡単に不定積分の計算ができないとき、被積分関数の特徴を見て部分積分法を利用しようとする。三角関数の積を和や積に変形する公式に興味をもち、自ら証明しようとする。	○	○	○	25
	第2節 定積分 【知識及び技能】 定積分の定義や性質を利用した種々の計算方法。置換積分法の積分区間の変換に注意。偶関数、奇関数を利用した定積分を計算。部分積分法を利用した定積分の計算。 上端、下端に変数xを含む定積分を、xで微分する。上端、下端が定数である定積分を含む関数を、定積分を定数として扱える。数列の和を長方形の面積の和として捉え、その極限を、適当な関数の定積分で表して求められる。関数の大小とその関数の定積分の大小との関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 絶対値を含む関数の定積分の処理。 $\sqrt{(a^2-x^2)}$の定積分と円の面積の関係。円の面積の公式と定積分。$\sin^n x$の上端がxである定積分を、xの関数とみることができる。曲線で囲まれた部分の面積を、微小な長方形の面積の和の極限。不等式に現れる式の図形的意味を長方形の面積と結び付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 簡単には定積分が求められない関数について、置換積分を用いて計算しようとする。簡単には定積分が求められない関数について、部分積分を用いて計算しようとする。曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形の和で近似する積分の基本的な考え方に興味、関心をもつ。不定積分が求められない関数があることや、微分積分学の基本定理に興味をもち、調べようとする。	・指導事項 定積分とその基本性質 定積分の置換積分法 定積分の部分積分法 いろいろな関数の不定積分 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する種々の関数の定積分の計算方法を理解しているか。定積分の置換積分法では、積分区間の変換に注意して定積分を計算できるか。偶関数、奇関数の定積分の性質を理解し、それを利用して定積分を計算できるか。定積分の部分積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の定積分を計算できるか。上端、下端に変数xを含む定積分を、xで微分することができるか。上端、下端がともに定数である定積分を含む関数を、定積分を定数とすることで求められるか。数列の和を長方形の面積の和として捉え、その極限を、適当な関数の定積分で表して求められる。関数の大小とその関数の定積分の大小との関係を理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 絶対値を含む関数の定積分を、積分区間を分けて求めることができるか。$\sqrt{(a^2-x^2)}$の定積分を、円の面積と関連付けて考察できるか。円の面積の公式は、定積分を利用して初めて数学的にきちんと証明されたことになることを理解しているか。$\sin nx$の上端がxである定積分を、xの関数とみることができるか。曲線で囲まれた部分の面積を、微小な長方形の面積の和の極限として捉えられるか。不等式に現れる式の図形的意味を長方形の面積と結び付けて捉え考えることで、定積分を利用した不等式の証明について考察できるか。 【学びに向かう力、人間性等】 簡単には定積分が求められない関数について、置換積分を用いて計算しようとするか。簡単には定積分が求められない関数について、部分積分を用いて計算しようとするか。曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形の和で近似する積分の基本的な考え方に興味、関心をもつか。不定積分が求められない関数があることや、微分積分学の基本定理に興味をもち、調べようとするか。				

[illegible]

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 数学 科目 数学C

教科： 数学 科目： 数学C 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組 選択者

使用教科書：（ 数学C（数研出版） ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し数学的に表現・処理する技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	問題を的確に数学的に表現し数理的に考察、過程や結論を批判的に判断する力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】	数学の活用，数学的論拠に基づく判断，問題解決の考察を深め評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学C の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	第3章 複素数平面 【知識及び技能】 (1) 複素数の和，差及び実数倍の図表示を，ベクトル和，差及び実数倍と関連付けて扱う。 (2) 複素数の乗法・除法の幾何学的意味，回転と拡大・縮小。 (3) ド・モアブルの定理。 【思考力、判断力、表現力等】 複素数を極形式で表し，乗法・除法をその回転と拡大・縮小として処理する。 (2) 累乗の計算や二項方程式を，複素数の幾何学的意味と関連付けてとらえる。 【学びに向かう力、人間性等】 複素数を複素数平面上で表し，諸性質を用いて考察しようとする。	・指導事項 複素数平面、 複素数の極形式と乗法・除法 ド・モアブルの定理 複素数と図形の関係 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 (1) 複素数の和，差及び実数倍の図表示を，ベクトル和，差及び実数倍と関連付けて扱うことができる。 (2) 複素数の乗法・除法を，その回転と拡大・縮小として考察できる。 (3) ド・モアブルの定理を知る。 【思考力、判断力、表現力等】 複素数を極形式で表し，乗法・除法をその回転と拡大・縮小として処理することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 複素数を複素数平面上で表し，諸性質を用いて考察しようとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	第3章 複素数平面 【知識及び技能】 ド・モアブルの定理を用いて，累乗の計算や二項方程式を解く。 【思考力、判断力、表現力等】 累乗の計算や二項方程式を，複素数の幾何学的意味と関連付けてとらえる。 【学びに向かう力、人間性等】 いろいろな図形を，複素数平面を利用することで考察し，その有用性に興味を示す。	・指導事項 ド・モアブルの定理 複素数と図形の関係 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 ド・モアブルの定理を用いて，累乗の計算や二項方程式を解くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 累乗の計算や二項方程式を，複素数の幾何学的意味と関連付けてとらえることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 いろいろな図形を，複素数平面を利用することで考察し，その有用性を理解しようとする。	○	○	○	16
	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 【知識及び技能】 2次曲線の個々の特徴を理解し，分類する。 【思考力、判断力、表現力等】 2次曲線の準線，焦点など，図形的な特徴を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 2次曲線の図形的な性質について調べる。	・指導事項 放物線 楕円 双曲線 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 2次曲線の個々の特徴を理解し，分類することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 2次曲線の準線，焦点など，図形的な特徴を表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 2次曲線の図形的な性質について調べようとする。	○	○		1

2 学 期	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 【知識及び技能】 2次曲線の個々の特徴を理解し、分類する。 【思考力、判断力、表現力等】 2次曲線の準線、焦点など、図形的な特徴を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 2次曲線の図形的な性質について調べる。	・指導事項 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線の性質 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 2次曲線の個々の特徴を理解し、分類することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 2次曲線の準線、焦点など、図形的な特徴を表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 2次曲線の図形的な性質について調べようとする。	○	○	○	16	
	第2節 媒介変数表示と極座標 【知識及び技能】 (1)直交座標と極座標の書き換え。 (2)媒介変数表示された曲線をかく。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)いろいろな曲線を媒介変数を用いて表現する。 (2)円や曲線について極座標を用いた方程式で表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 極座標による表現や図形の方程式を極座標を用いた表現方法に興味を持つ。	・指導事項 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式 いろいろな曲線 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 (1)直交座標と極座標の書き換えができる。 (2)媒介変数表示された曲線をかくことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)いろいろな曲線を媒介変数を用いて表現することができる。 (2)円や曲線について極座標を用いた方程式で表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 極座標による表現や図形の方程式の極座標を用いた表現方法に興味を持ち、その曲線をかくようとする。	○	○	○		
	定期考査			○	○			1
	数学Cのまとめと演習 【知識及び技能】 今までの総合。 【思考力、判断力、表現力等】 今までの総合。 【学びに向かう力、人間性等】 問題演習をする。	・指導事項 2学年で発展的学習として履修したベクトルと3年で履修した分野。 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	数学Cのまとめと演習 【知識及び技能】 数学Cの基本的な知識と技能を修得できているか。 【思考力、判断力、表現力等】 数学Cを用いて思考、判断、表現できるか。 【学びに向かう力、人間性等】 問題演習を積極的にしているか。	○	○	○		18
定期考査			○	○		1		
3 学 期	数学Cのまとめと演習 【知識及び技能】 今までの総合。 【思考力、判断力、表現力等】 今までの総合。 【学びに向かう力、人間性等】 問題演習をする。	・指導事項 2学年で発展的学習として履修したベクトルと3年で履修した分野。 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	数学Cのまとめと演習 【知識及び技能】 数学Cの基本的な知識と技能を修得できているか。 【思考力、判断力、表現力等】 数学Cを用いて思考、判断、表現できるか。 【学びに向かう力、人間性等】 問題演習を積極的にしているか。	○	○	○	6	
							合計	
							70	

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 理科 科目 物理、物理演習

教科：理科 科目：物理、物理演習 単位数：6 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 数研出版「物理」 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理、物理演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1編 力と運動 【知識及び技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組んでいる。	・指導事項 「平面運動の速度・加速度」 「落体の運動」 「剛体にはたらく力のつりあい」 「剛体にはたらく力の合力と重心」 「運動量と力積」 「運動量保存則」 「反発係数」 「等速円運動」 「慣性力」 「単振動」 「万有引力」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・記録タイマーやスマートフォンの物理計測アプリ、録画アプリなどを使用し、位置、速度、加速度などを測定してグラフにする。	【知識・技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考・判断・表現】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組むことができる。	○	○	○	44
	定期考査			○	○		1
	第2編 熱と気体（夏期講習） 【知識及び技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組んでいる。	・指導事項 「気体の法則」 「気体分子の運動」 「気体の状態変化」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器	【知識・技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考・判断・表現】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組むことができる。	○	○	○	21
	第3編 波 【知識及び技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組んでいる。	・指導事項 「波と媒質の運動」 「正弦波の式」 「波の伝わり方」 「音の伝わり方」 「音のドップラー効果」 「光の性質」 「レンズと鏡」 「光の干渉と回折」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・音や光の干渉を測定し、波長や振動数を計算する。	【知識・技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考・判断・表現】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組むことができる。	○	○	○	22
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第4編 電気と磁気 【知識及び技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組んでいる。	・指導事項 「静電気力」 「電場」「電位」 「物質と電場」 「コンデンサー」 「オームの法則」 「直流回路」 「半導体」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・静電気力の大きさを測定することでもたまっている電荷の量を計算する。	【知識・技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考・判断・表現】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組むことができる。	○	○	○	41
	定期考査			○	○		1
	第4編 電気と磁気 【知識及び技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組んでいる。	・指導事項 「磁場」 「電流の作る磁場」 「電流が磁場から受ける力」 「ローレンツ力」 「電磁誘導の法則」 「自己誘導と相互誘導」 「交流の発生」 「交流回路」 「電磁波」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・電磁誘導の誘導起電力を測定し、磁束密度の大きさを計算する。	【知識・技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考・判断・表現】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組むことができる。	○	○	○	40
定期考査			○	○		1	
3 学 期	第5編 原子 【知識及び技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組んでいる。	・指導事項 「電子」「光の粒子性」 「X線」「粒子の波動性」 「原子の構造とエネルギー準位」 「原子核」 「放射線とその性質」 「核反応と核エネルギー」 「素粒子」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器	【知識・技能】 各項目を理解し、立式、計算することができる。 【思考・判断・表現】 各項目の運動の様子を理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各項目を理解しようとし、実験に主体的に取り組むことができる。				37
	定期考査			○	○		1
					○	○	合計 210

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 理科 科目 化学

教 科： 理科 科 目： 化学 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 ① 組～ ③ 組 （必修選択科目）

使用教科書：（ 数研出版 化学 ）

教科 理科(化学) の目標：

【知 識 及 び 技 能】	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元：アルコールと関連化合物 【知識及び技能】酸素を含む有機化合物において、炭素骨格および官能基によりその性質が特徴づけられることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】酸素を含む有機化合物の反応性の違いで、化合物を判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル、油脂、石鹸 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】酸素を含む有機化合物において、炭素骨格および官能基によりその性質が特徴づけられることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】酸素を含む有機化合物の反応性の違いで、化合物を判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	10
	単元：溶液 【知識及び技能】溶解のしくみ、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。また、希薄溶液やコロイド溶液の性質について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】溶解度、希薄溶液の性質を用いて、目的の数値を求めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 溶解度、希薄溶液の性質、コロイド溶液 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】溶解のしくみ、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。また、希薄溶液やコロイド溶液の性質について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】溶解度、希薄溶液の性質を用いて、目的の数値を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	単元：化学反応とエネルギー 【知識及び技能】化学反応に伴う熱や光の出入りをエンタルピー変化を用いて表すことやヘスの法則、結合エネルギーを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】ヘスの法則によりエンタルピー変化を適切に用いることで、エンタルピー変化や結合エネルギーを求めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 エンタルピー変化、ヘスの法則、エネルギー図、反応エンタルピー、結合エネルギー ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】化学反応に伴う熱や光の出入りをエンタルピー変化を用いて表すことやヘスの法則、結合エネルギーを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】ヘスの法則によりエンタルピー変化を適切に用いることで、エンタルピー変化や結合エネルギーを求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	6
	単元：芳香族化合物 【知識及び技能】芳香族化合物の構造と性質、反応性について、脂肪族化合物と対比しながら、体系的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】芳香族化合物の反応性の違いで、芳香族化合物を判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 ベンゼン、フェノール類、芳香族カルボン酸、フェノール類、芳香族アミン、アゾ染料、芳香族化合物の分離 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】芳香族化合物の構造と性質、反応性について、脂肪族化合物と対比しながら、体系的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】芳香族化合物の反応性の違いで、芳香族化合物を判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	10
	単元：反応の速さとしきみ 【知識及び技能】化学反応の反応速度の表し方とともに、反応速度と反応条件（濃度、温度、触媒）の関係や活性化エネルギー、触媒の利用について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】反応速度式を用い反応速度や速度定数を求め、また温度や触媒と反応速度の関係を活性化エネルギーを用い説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 反応速度式、反応速度と反応条件の関係、触媒、活性化エネルギー ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】化学反応の反応速度の表し方とともに、反応速度と反応条件（濃度、温度、触媒）の関係や活性化エネルギー、触媒の利用について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】反応速度式を用い反応速度や速度定数を求め、また温度や触媒と反応速度の関係を活性化エネルギーを用い説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1

2 学 期	単元：化学平衡 【知識及び技能】可逆反応と化学平衡，ルシャトリエの原理に基づく化学平衡の移動や化学平衡の法則を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】平衡定数を用い，化学平衡における量的関係を求め，また平衡の移動をルシャトリエの原理に基づいて判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 化学平衡，ルシャトリエの原理 化学平衡の法則、平衡定数 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】可逆反応と化学平衡，ルシャトリエの原理に基づく化学平衡の移動や化学平衡の法則を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】平衡定数を用い，化学平衡における量的関係を求め，また平衡の移動をルシャトリエの原理に基づいて判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	10
	単元：電解質水溶液の化学平衡 【知識及び技能】電離平衡について理解し，電離定数を利用したpHの求め方、また緩衝液や溶解度積について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】電離度・電離定数を用い，各種溶液のpHを求めることができる，また溶解度積を用い量的計算ができる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 電離定数、電離度、pHの求め方、緩衝液、塩の加水分解、溶解度積 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】電離平衡について理解し，電離定数を利用したpHの求め方、また緩衝液や溶解度積について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】電離度・電離定数を用い，各種溶液のpHを求めることができる，また溶解度積を用い量的計算ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	12
	単元：天然高分子化合物 【知識及び技能】糖類，タンパク質，核酸について，その構造や性質・検出反応を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】性質・検出反応等で糖類・アミノ酸・タンパク質を分類し，反応式を作り量的関係の計算ができる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 単糖，二糖，ヘミアセタール構造、加水分解、デンプン、セルロース、αアミノ酸、双性イオン、等電点、アミノ酸の検出反応、核酸 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】糖類，タンパク質，核酸について，その構造や性質・検出反応を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】性質・検出反応等で糖類・アミノ酸・タンパク質を分類し，反応式を作り量的関係の計算ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	単元：合成高分子化合物 【知識及び技能】合成繊維や合成樹脂（プラスチック），ゴムについて，その構造や性質を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】合成繊維・合成樹脂の構造式を書くことができる，構造式に基づいて量的計算を行うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 ナイロン，ポリエチレンテレフタレート，ポリエチレン，ビニロンなど、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、フェノール樹脂、イオン交換樹脂、ゴム、機能性高分子 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】合成繊維や合成樹脂（プラスチック），ゴムについて，その構造や性質を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】合成繊維・合成樹脂の構造式を書くことができ，構造式に基づいて量的計算を行うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	12
	単元：まとめと総合演習問題 【知識及び技能】化学の総まとめ問題を解き知識および技能の基本を理解定着する。 【思考力、判断力、表現力等】化学の総まとめ問題を解くことにより、思考・判断したことを表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 総合問題演習 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】化学の総まとめ問題を解き知識および技能の基本を理解定着する。 【思考力、判断力、表現力等】化学の総まとめ問題を解くことにより、思考・判断したことを表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	単元：まとめと総合演習問題 【知識及び技能】化学の総まとめ問題を解き知識および技能の基本を理解定着する。 【思考力、判断力、表現力等】化学の総まとめ問題を解くことにより、思考・判断したことを表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 総合問題演習 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】化学の総まとめ問題を解き知識および技能の基本を理解定着する。 【思考力、判断力、表現力等】化学の総まとめ問題を解くことにより、思考・判断したことを表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	36
							合計
							140

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3学年） 教科 理科 科目 生物・生物演習

教科： 理科 科目： 生物・生物演習 単位数： 6 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 6 組（必修選択科目・自由選択科目）

使用教科書： （ 東京書籍 生物 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物・生物演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1編 生物の進化 生命の起源と細胞の進化 遺伝子の変化と進化のしくみ 【知識及び技能】 共通性と多様性をつなぐ進化について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多様な遺伝的変異をもたらす有性生殖について説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 進化について科学的に探究する。	・指導事項:生物の進化のしくみ ・教材:教科書・プリント・実験観察レポート・小テスト等 ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 共通性と多様性をつなぐ進化について理解している。 【思考・判断・表現】 多様な遺伝的変異をもたらす有性生殖について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	20
	1編 生物の進化 生物の系統と進化 【知識及び技能】 生物の系統と分類について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の系統と分類について説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 人類の出現と変遷について、科学的に探究する。	・指導事項:生物の系統と進化 ・教材:プリント・実験観察レポート・小テスト等 ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 生物の系統と分類について理解している。 【思考・判断・表現】 生物の系統と分類について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	25
	定期考査			○	○		1
	2編 生命現象と物質 細胞と物質 【知識及び技能】 細胞を構成する成分について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 タンパク質の構造について説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 生命現象とタンパク質について科学的に探究しようとする。	・指導事項:細胞と物質 ・教材:プリント・実験観察レポート・小テスト等 ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 細胞を構成する成分について理解している。 【思考・判断・表現】 タンパク質の構造について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	23
	2編 生命現象と物質 代謝とエネルギー 【知識及び技能】 呼吸・発酵・光合成について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 呼吸・発酵・光合成について説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 代謝とエネルギーについて、科学的に探究しようとする。	・指導事項:代謝とエネルギー ・教材:プリント・実験観察レポート・小テスト等 ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 呼吸・発酵・光合成について理解している。 【思考・判断・表現】 呼吸・発酵・光合成について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 代謝とエネルギーについて、科学的に探究しようとする。	○	○	○	25
	定期考査			○	○		1

2 学 期	3編 遺伝情報の発現と発生 遺伝情報の発現 【知識及び技能】セントラルドグマについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】セントラルドグマについて説明する。 【学びに向かう力、人間性等】遺伝情報の発現について、科学的に探究しようとする。	・指導事項：遺伝情報の発現 ・教材：プリント・実験観察レポート・小テスト等 ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】セントラルドグマについて理解している。 【思考・判断・表現】セントラルドグマについて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】遺伝情報の発現について、科学的に探究しようとする。	○	○	○	23
	3編 遺伝情報の発現と発生 発生と遺伝子発現 遺伝子を扱う技術 【知識及び技能】発生と遺伝子発現・遺伝子を扱う技術について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】発生と遺伝子発現・遺伝子を扱う技術について説明する。 【学びに向かう力、人間性等】発生と遺伝子発現・遺伝子を扱う技術について科学的に探究しようとする。	・指導事項：遺伝情報の発現と発生 ・教材：プリント・実験観察レポート・小テスト等 ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】発生と遺伝子発現・遺伝子を扱う技術について理解している。 【思考・判断・表現】発生と遺伝子発現・遺伝子を扱う技術について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	4編 生物の環境応答編 【知識及び技能】生物の環境応答編について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】生物の環境応答について説明する。 【学びに向かう力、人間性等】生物の環境応答について、科学的に探究しようとする。	・指導事項：生物の環境応答 ・教材：プリント・実験観察レポート・小テスト等 ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】生物の環境応答について理解している。 【思考・判断・表現】生物の環境応答について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物の環境応答について科学的に探究しようとする。	○	○	○	20
	5編 生態と環境 個体群と生物群集 生態系の物質収支 【知識及び技能】個体群と生物群集・生態系の物質収支について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】個体群と生物群集・生態系の物質収支について説明する。 【学びに向かう力、人間性等】個体群と生物群集・生態系の物質収支について、科学的に探究しようとする。	・指導事項：個体群と生物群集 生態系の物質収支 ・教材：プリント・実験観察レポート・小テスト等 ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】個体群と生物群集・生態系の物質収支について理解している。 【思考・判断・表現】個体群と生物群集・生態系の物質収支について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】個体群と生物群集・生態系の物質収支について、科学的に探究しようとする。	○	○	○	25
3 学 期	定期考査			○	○		1
	5編 生態と環境 生態系と人間生活 【知識及び技能】生態系と人間生活について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】生態系と人間生活について説明する。 【学びに向かう力、人間性等】生態系と人間生活について、科学的に探究しようとする。	・指導事項：生態系と人間生活 ・教材：プリント・実験観察レポート・小テスト等 ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】生態系と人間生活について理解している。 【思考・判断・表現】生態系と人間生活について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	25
							合計
							210

武蔵野北高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 男女 単位数：3 単位

対象学年組：第3学年 1組～ 6組

使用教科書：（大修館書店 新高等保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
B 単元「バドミントン」 【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方などを理解するとともに、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と仲間と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 シャトル慣れ サーブ クリア ヘアピン スマッシュ ドロップ 簡易ゲーム ゲーム	【知識・技能】 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える 【学びに向かう力・人間性等】 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ・作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。	○	○	○	19
C 単元「バレーボール」 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 ボール慣れ 基礎練習 基本練習 レセプション練習 ディグ練習 サーブ 乱打 ゲーム	【知識・技能】 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間の侵入などから攻防をする 【思考力・判断力・表現力等】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える 【学びに向かう力・人間性等】 ・バレーボールに主体的に取り組もうとしている ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている	○	○	○	19

1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	C 単元「サッカー」 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 【思考力・判断力・表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力・人間性等】 自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 ボール慣れ 基礎練習 基本練習 シュート練習 フォーメーション 練習 ゲーム	【知識・技能】 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間の侵入などから攻防をする 【思考力・判断力・表現力等】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的。計画的な解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える 【学びに向かう力・人間性等】 ・サッカーに主体的に取り組もうとしている ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている	○	○	○	19
	E 単元「ソフトボール」 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ベースボール型では、状況に応じたバット操作と状況に応じた守備などによって攻防をすること。 【思考力・判断力・表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力・人間性等】 自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 ボール慣れ 基礎練習 基本練習 守備 攻撃 ピッチング ゲーム	【知識・技能】 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。 ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間の侵入などから攻防をする。 【思考力・判断力・表現力等】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的。計画的な解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える。 【学びに向かう力・人間性等】 ・ソフトボールに主体的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。	○	○	○	12
	B 単元「卓球」 【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方などを理解するとともに、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と仲間と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 【思考力・判断力・表現力等】 自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力・人間性等】 フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 ボール慣れ サーブ ストローク フットワーク 簡易ゲーム ゲーム	【知識・技能】 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する 【思考力・判断力・表現力等】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的。計画的な解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える 【学びに向かう力・人間性等】 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ・作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。	○	○	○	12

B 単元「テニス」 【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方などを理解するとともに、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と仲間と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 フェアなプレイを大切にしようとするこ と、合意形成に貢献しようとするこ と、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切に しようとするこ、互いに助け合い高め合 おうとするこなどや、健康・安全を確保 すること。	・指導事項 ボール慣れ サーブ ストローク フットワーク 簡易ゲーム ゲーム	【知識・技能】 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的。計画的な解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える 【学びに向かう力・人間性等】 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ・作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。	○ ○ ○	12
E 単元「バスケットボール」 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするこ、作戦などについての話し合いに貢献しようとするこ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするこ、互いに助け合い教え合おうとするこなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 ボール慣れ 基礎練習 基本練習 シュート練習 ゲーム	【知識・技能】 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。 ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間の侵入などから攻防をする。 【思考力・判断力・表現力等】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的。計画的な解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える。 【学びに向かう力・人間性等】 ・バスケットボールに主体的に取り組もうとしている ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。	○ ○ ○	12 合計 105

【知識及び技能】	・2学年における指導との接続に留意しながら、英語コミュニケーションⅡで習得した能力を更に伸長させながら、英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を更に深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じてより適切に活用できる技能の養成を更に図っていく。 ・英語の学習を通して、国際社会・言語・民族に対する新しい知識を習得しながら、既存の知識や技能と関連づけ、国際理解のための資質・能力を養う。 ・獲得した個別の技能が自分の経験や他の技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる。
【思考力、判断力、表現力等】	・英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで習得した能力を更に伸ばし、日常的な話題から社会的な話題・文化・人間・自然などについて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 ・外国語の背景にある文化・社会・歴史に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	・「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現を繰り返し使用させ、「思考力、判断力、表現力等」の伸長を図ることで、生徒に自信をもたせ、他を受け入れ、個人の価値を尊重し、主体的・自律的に学習に取り組み、更に深化・発展させようとする態度を一層向上させる。

科目 英語コミュニケーションⅢ の目標：	【知識及び技能】 ・2学年における指導との接続に留意しながら、英語コミュニケーションⅡで習得した能力を更に伸長させながら、英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を更に深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じてより適切に活用できる技能の養成を更に図っていく。 ・英語の学習を通して、国際社会・言語・民族に対する新しい知識を習得しながら、既存の知識や技能と関連づけ、国際理解のための資質・能力を養う。 ・獲得した個別の技能が自分の経験や他の技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる。	【思考力、判断力、表現力等】 ・外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することができるようにさせる。 【聞くこと】 ・日常的・社会的な話題に関して、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることを把握することができるようにさせる。 【読むこと】 ・日常的・社会的な話題に関して、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることを把握することができるようにさせる。 【話すこと(やりとり)】 ・日常的な話題に関して、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにさせる。原則としてここでのやり取りは即興で行う。また、社会的な話題に関して、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにさせる。 【話すこと(発表)】 ・日常的な話題に関して、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにさせる。また、社会的な話題に関して、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにさせる。 【書くこと】 ・日常的な話題に関して、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにさせる。また、社会的な話題に関して、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにさせる。	【学びに向かう力、人間性等】 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養わせる。 ・「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現を繰り返し使用させ、「思考力、判断力、表現力等」の伸長を図ることで、生徒に自信をもたせ、他を受け入れ、個人の価値を尊重し、主体的・自律的に学習に取り組み、更に深化・発展させようとする態度を一層向上させる。
----------------------	--	--	--

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	【 や 話 】	【 発 話 】	書					
1 学 期	Lessons 1-5 【知識及び技能】 ・ターゲットである文法事項 ・言語機能の理解と場面に応じた運用 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 ・本課の題材について、理解して考えを深めることができる。 ・本課の題材について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 【L】 本課の題材についての対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら聞き取ることができる。 【R】 本課の題材に関する談話を読み、概要や要点を把握することができる。 【S発】 本課の題材について、基本的な語句や文を用いて、与えられた表現を参考に自分の考えを論理的に発表することができる。 【W】 本課の題材について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えを書いて伝えることができる。	・本課の題材に関する英語話者の体験について説明するモノローグの概要や要点を聞き取り、聞き取った内容を伝え合う。 ・本課の題材に関するグラフを見て、読み取ったことや考えたことについて論理的に発表する。 ・本課の題材に関する談話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 ・本課の題材について意見や情報を交換する。 ・本課の題材に関する談話について、概要や要点を表に書いて整理したりしながら、書いてまとめる。 ・本課の題材についての対話から、概要や詳細を聞き取る。 ・本課の題材について、情報や意見を交換する。 ・本課の題材について、グループで話し合った内容を基に、情報や考えを書く。 ・本課のターゲットである文法事項を使って、自分の考えや行動について書く。 ・本課の題材について、概要を聞き取ったり読み取ったりする。 ・本課の題材について、自分自身の考えなどを発表する。	○	○		○	○	【知識】 本課のターゲットである文法事項に関する事項を理解している。 本課の題材の中で使われている表現の意味や働きを理解している。 【技能】 【L】 本課の題材について、対話の中での相づけをうつ表現や話の展開に注意しながら、対話を聞き取る技能を身に付けている。 【R】 本課の題材について、本課のターゲットである文法事項や本文中で使われている表現に留意して、読み取る技能を身に付けている。 【S発】 本課の題材などについて、意見を論理的に発表する技能を身に付けている。 【W】 本課の題材について、グループで話し合った内容を基に、情報や考えを書いて伝える技能を身に付けている。 【L】 本課の題材について、対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら聞き取って捉えている。 【R】 本課の題材について、理解を深めるために、本課の題材に関する談話を読み取り、概要や要点を把握している。 【S発】 本課の題材について、基本的な語句や文を用いて、論理的に発表している。 【W】 本課の題材について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えを書いて伝えている。 【L】 本課の題材についての対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら主体的に聞き取って捉えようとしている。 【R】 本課の題材について理解を深めるために、本課の題材に関する談話を主体的に読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 【S発】 本課の題材について、基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを発表している。 【W】 本課の題材について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、主体的に情報や考えを書いて伝えようとしている。	○	○	○	60

[illegible]

武蔵野北高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 外国語 科目 論理・表現Ⅲ

教科： 外国語 科目： 論理・表現Ⅲ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ CROWN English Logic and ExpressionⅢ(三省堂) ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】	・2学年における指導との接続に留意しながら、論理表現Ⅱで習得したことを更に深めるとともに、これらの知識や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解などに応じてより適切に活用できる技能の養成を更に図る。 ・新しい知識を確実に習得しながら、既存の知識や技能と関連づけたり組み合わせたりして、自ら深めていける力を養成する。 ・獲得した個別の技能が自分の経験や他の技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる。大学入試にも適用できる力を養成する。
【思考力、判断力、表現力等】	・論表Ⅱで習得した力を更に伸ばし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を更に深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。大学入試にも活用できる力を養成する。
【学びに向かう力、人間性等】	・「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現を繰り返し使用させ、「思考力、判断力、表現力等」の伸長を図ることで、生徒に自信をもたせ、主体的・自律的に学習に取り組む態度を一層向上させる。

科目 論理・表現Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・2学年における指導との接続に留意しながら、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を更に深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けさせる。特に、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、1つの段落を書くことを通じて、論理の構成や展開を工夫して伝える又は伝え合うことができるようにさせる。 ・新しい知識を確実に習得しながら、既存の知識や技能と関連づけたり組み合わせたりさせる。 ・獲得した個別の技能が自分の経験や他の技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できるようにさせる。大学入試に対応できる力の養成も図る。 ・大学入試共通テストや2次試験・個別入試などに対応できる力を養成する。	【話すこと(やりとり)】様々な話題に関して、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにさせる。また、社会的な話題に関して、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにさせる。 【話すこと(発表)】様々な話題に関して、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにさせる。また、社会的な話題に関して、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにさせる。 【書くこと】様々な話題に関して、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して伝える文章を書くことができるようにさせる。また、社会的な話題に関して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝える文章を書くことができるようにさせる。 ・大学入試共通テストや2次試験・個別入試などに対応できる力を養成する。	・外国語の背景にある文化に対する理解を更に深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を定着させる。 ・「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現を繰り返し使用させ、「思考力、判断力、表現力等」の伸長を図ることで、生徒に自信をもたせ、主体的・自律的に学習に取り組む態度を一層向上させる。 ・大学入試共通テストや2次試験・個別入試などに対応できる姿勢を養成する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	書					
1 学 期	Lesson 1-4 【知識・技能】 ・ターゲットである文法事項 ・言語機能の場面に応じた運用 【思考力・判断力・表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 ・本課の題材についてのやりとりや、本課の題材について語ったスピーチなどを通して、本課の題材について述べればよいかについて、考えを深めることができる。 [W] 本課の題材について、論理的に考えを構成し、英文を書くことができる。 [Sや] 本課の題材について基本的な語彙や文法を活用して、与えられたフォーマットを参考に、自分の考えを、やり取りの表現を用いて伝え合うことができる。 [S発] 本課の題材について、基本的な語彙や文法を活用して、与えられたサンプルを参考にスピーチ原稿を作成し、発表することができる。	・本課の題材についての意見や考えを交換し、本課活動のためのウォームアップとする。 ・やり取りを聞いて、本課の題材について概要を理解する。 ・本課の題材の理解を通して、本課のターゲットである文法事項について理解を深める。また、本課の題材について英語で論理的に表現する。 ・本課の題材の関連資料から情報を読み取り、本課の題材の背景について理解を深める。また、本課の題材について意見交換する。 ・本課のターゲットとする文法事項および論理構成に留意しながら、本課の題材に関する要約と意見文を書く。 ・書いた要約と意見文を基に、例にならってペアまたはグループでやり取りを行う。 ・本課のターゲットとする文法事項についての理解を深め、本課の題材の関連資料について書いたり、やり取りする。 ・本課の題材の関連資料についてのスピーチの概要を捉えると共に、スピーチの構成や展開について理解を深める。 ・本課の題材について、これまで学習した言語材料及び題材を活用して英語で表現し、スピーチを行う。またスピーチを聞いてメモを取ったり質問したりする。 ・本課で学んだ論理展開の方法を活用して、関連題材を1つ選んで、相互発表を行う。 ・大学入試共通テスト、個別入試、2次試験に対応できる力を養成する。	○	○	○	【知識】 本課のターゲットである文法事項について理解している。言語機能を理解している。 【技能】 [W] 本課の題材について、言語機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを書く技能を身に付けている。 [Sや] 本課の題材について、言語機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用してスピーチ原稿を作成し、発表する技能を身に付けている。 [S発] 本課の題材について、複数のアイデアの中から適切なものを取捨選択し、それを基本的な語彙や文法を活用して表現して伝えたり、相手からの質問に回答したりしている。 [Sや] 本課の題材について、複数のアイデアや情報の中から適切なものを取捨選択し、それを基本的な語彙や文法を活用して、聞き手を意識しながらスピーチしている。 [Sや] 本課の題材について、主体的に考え、複数のアイデアの中から適切なものを取捨選択し、それを基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して伝えようとしたり、相手からの質問に回答したりしようとしている。 [S発] 本課の題材について、主体的に考え、複数のアイデアの中から適切なものを取捨選択し、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、聞き手を意識しながら主体的にスピーチしようとしている。	○	○	○	29
2 学 期	Lesson 5-8 【知識・技能】 ・ターゲットである文法事項 ・言語機能の場面に応じた運用 【思考力・判断力・表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 ・本課の題材についてのやりとりや、本課の題材について語ったスピーチなどを通して、本課の題材について述べればよいかについて、考えを深めることができる。 [W] 本課の題材について、論理的に考えを構成し、英文を書くことができる。 [Sや] 本課の題材について基本的な語彙や文法を活用して、与えられたフォーマットを参考に、自分の考えを、やり取りの表現を用いて伝え合うことができる。 [S発] 本課の題材について、基本的な語彙や文法を活用して、与えられたサンプルを参考にスピーチ原稿を作成し、発表することができる。	・本課の題材についての意見や考えを交換し、本課活動のためのウォームアップとする。 ・やり取りを聞いて、本課の題材について概要を理解する。 ・本課の題材の理解を通して、本課のターゲットである文法事項について理解を深める。また、本課の題材について英語で論理的に表現する。 ・本課の題材の関連資料から情報を読み取り、本課の題材の背景について理解を深める。また、本課の題材について意見交換する。 ・本課のターゲットとする文法事項および論理構成に留意しながら、本課の題材に関する要約と意見文を書く。 ・書いた要約と意見文を基に、例にならってペアまたはグループでやり取りを行う。 ・本課のターゲットとする文法事項についての理解を深め、本課の題材の関連資料について書いたり、やり取りする。 ・本課の題材の関連資料についてのスピーチの概要を捉えると共に、スピーチの構成や展開について理解を深める。 ・本課の題材について、これまで学習した言語材料及び題材を活用して英語で表現し、スピーチを行う。またスピーチを聞いてメモを取ったり質問したりする。 ・本課で学んだ論理展開の方法を活用して、関連題材を1つ選んで、相互発表を行う。 ・大学入試共通テスト、個別入試、2次試験に対応できる力を養成する。	○	○	○	【知識】 本課のターゲットである文法事項について理解している。言語機能を理解している。 【技能】 [Sや] 本課の題材について、言語機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを伝え合う技能を身に付けている。 [S発] 本課の題材について、論理展開に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用してスピーチ原稿を作成し、発表する技能を身に付けている。 [Sや] 本課の題材について、複数のアイデアの中から適切なものを取捨選択し、それを基本的な語彙や文法を活用して表現して伝えたり、相手からの質問に回答したりしている。 [W] 本課の題材について、複数のアイデアや情報の中から適切なものを取捨選択し、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して書こうとしている。 [Sや] 本課の題材について、主体的に考え、複数のアイデアの中から適切なものを取捨選択し、それを基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して伝えようとしたり、相手からの質問に回答したりしようとしている。 [S発] 本課の題材について、主体的に考え、複数のアイデアの中から適切なものを取捨選択し、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、聞き手を意識しながら主体的にスピーチしようとしている。	○	○	○	31

[illegible]

国語 科目 発展国語

1 单位

6 組

)

の目標：

【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。
【思考力、判断力、表現力等】	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
大学入学共通テストおよび個別の大学入試に対応できる応用力と実践力を養う。	大学入学共通テストおよび個別の大学入試に対応できる応用力と実践力を養う。	大学入学共通テストおよび個別の大学入試に対応できる応用力と実践力を養う。

単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	進度 経・期 書・読		評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	大学入試共通テストのための演習 【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付ける。・古文・漢文の文法事項を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付ける。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付ける。	・大学入試共通テストに向けた基礎的な演習に取り組む。		○	【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付いている。・古文・漢文の文法事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付いている。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付いている。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付けようとしている。	○	○	○	12
2 学 期	大学入試共通テストのための演習 【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付ける。・古文・漢文の文法事項を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付ける。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付ける。	・大学入試共通テストに向けた発展的な演習に取り組む。		○	【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付いている。・古文・漢文の文法事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付いている。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付いている。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付けようとしている。	○	○	○	13
3 学 期	大学入試共通テストのための演習 【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付ける。・古文・漢文の文法事項を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付ける。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付ける。	・大学入試共通テストに向けた実践的な演習に取り組む。		○	【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付いている。・古文・漢文の文法事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付いている。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付いている。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付けようとしている。	○	○	○	10
									合計
									35

国語 科目 国語演習

教科：国語

科 目： 国語演習

单位数： 2 单位

対象学年組：第 3 学年 1 組～

6 組

使用教科書：

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】	私立大学の個別入試への対応を図るにあたり、基礎となる知識技能の特質を理解・習得し、適切に使うことができる。
【思考力、判断力、表現力等】	解答を検討する場で解答に至る道すじについて論じ合い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】	多様なテーマや考えかたの問題文に触れることで、言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 国語演習

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
私立大学の個別入試に対応できる応用力と実践力を養う。	私立大学の個別入試に対応できる応用力と実践力を養う。	私立大学の個別入試に対応できる応用力と実践力を養う。

単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	領域 語・文・読		評価規程	知	思	態	配当 時数
1 学 期	私立大学の個人入試のための演習 【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付ける。・古文・漢文の文法事項を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付ける。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付ける。	・私立大学の個人入試に向けた基礎的な演習に取り組む。			【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付いている。・古文・漢文の文法事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付いている。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付いている。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付けようとしている。	○	○	○	25
2 学 期	私立大学の個人入試のための演習 【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付ける。・古文・漢文の文法事項を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付ける。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付ける。	・私立大学の個人入試に向けた発展的な演習に取り組む。			【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付いている。・古文・漢文の文法事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付いている。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付いている。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付けようとしている。	○	○	○	25
3 学 期	私立大学の個人入試のための演習 【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付ける。・古文・漢文の文法事項を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付ける。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付ける。	・私立大学の個人入試に向けた実践的な演習に取り組む。			【知識及び技能】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力に必要な知識及び技能が身に付いている。・古文・漢文の文法事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】・近代以降の様々な論理的文章や文学的文章を読み、読解力が身に付いている。・古文・漢文の文法事項の理解を基に、古典読解力が身に付いている。 【学びに向かう力、人間性等】・総合的な国語力を身に付けようとしている。	○	○	○	20

合計	70
----	----

武蔵野北高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

国語 科目 発展古典探究

教科： 国語 科目： 発展古典探究

単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 6 組

使用教科書： （ 高等学校 精選古典探究（第一学習社） ）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。
【思考力、判断力、表現力等】	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】	言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 発展古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。	論理的に考える力や深く共感した豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	言葉を通し積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 語・書・読	評価規準	知	思	態	配 時 数
1 学 期	大鏡 【知識および技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める。・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。・必要に応じて書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。 【学びに向かう力、人間性等】・学習課題に沿って話の展開や構成を整理し、進んで内容の理解を深めようとする。・本文の叙述をふまえて、粘り強く書き手の考えや意図を捉えようとする。	・歴史物語の列伝に記載されたさまざまなエピソードを読んで、歴史に残された人々の姿に触れる。 ・歴史物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容の的確に捉える。 ・書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。・古典の文や文章の構成・展開のしかたについて理解を深める。 ・我が国の文化の特質や、外国の文化との関係について理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。		大鏡 【知識および技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力等】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。・必要に応じて書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【学びに向かう力、人間性等】・学習課題に沿って話の展開や構成を整理し、進んで内容の理解を深めようとしている。・本文の叙述をふまえて、粘り強く書き手の考えや意図を捉えようとしている。				6
	枕草子 【知識および技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める。・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】・学習の見通しをもって日記的な随筆の章段を読み、進んで登場人物同士の関係性を読み解こうとする。・本文の背景にある宮廷生活の様子を積極的に理解し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとする。	・日記の章段を読んで、作者と中宮定子との関係性を読み解くとともに、当時の宮廷生活に関する理解を深める。 ・随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容の的確に捉える。 ・古典の文章を読み、その内容や形式などに関して、発表したり議論したりする。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。・我が国の文化の特質や、外国の文化との関係について理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。		枕草子 【知識および技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力等】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】・学習の見通しをもって日記的な随筆の章段を読み、進んで登場人物同士の関係性を読み解こうとしている。・本文の背景にある宮廷生活の様子を積極的に理解し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。				8
	講話（不顧後患）「不若人其有宝」「不死之道」 【知識・理解】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める。・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】・積極的に逸話を読み、臣下の立場にある少蓮子的心情と、少蓮子が良主を説得するためにとった方法とを説明しようとしている。・積極的に逸話を読み、子平が「玉」を受け取らなかった理由と、そのことに対する宋国の長者の評価について説明しようとしている。・人にとっての宝とはどのようなものかについて進んで理解しようとしている。・積極的に逸話を読み、「不死の道」についての人々の考えを説明しようとしている。	・古代における臣下の立場を理解するとともに、良主に対する少蓮子の説得の巧みさを読み取る。 ・前半の子平の逸話と後半の論説を読み、人にとっての宝とはどのようなものか捉える。 ・「不死の道」を知る者の死をめぐめる人々の言葉から、「不死の道」についてのそれぞれの考えを読み取る。 ・逸話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ・逸話を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・我が国の文化の特質や、外国の文化との関係について理解を深める。 ・訓読のきまりについて理解を深める。		講話（不顧後患）「不若人其有宝」「不死之道」 【知識・理解】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力等】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】・積極的に逸話を読み、臣下の立場にある少蓮子的心情と、少蓮子が良主を説得するためにとった方法とを説明しようとしている。・積極的に逸話を読み、子平が「玉」を受け取らなかった理由と、そのことに対する宋国の長者の評価について説明しようとしている。・人にとっての宝とはどのようなものかについて進んで理解しようとしている。・積極的に逸話を読み、「不死の道」についての人々の考えを説明しようとしている。				10
	定期考査							1
	源氏物語 【知識及び技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める。・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】・学習課題に沿って話の展開や構成を整理し、進んで内容の理解を深めようとする。・学習課題に沿って描写や表現に着目し、粘り強く登場人物の心理について理解を深めようとする。	・長編物語としてのストーリーをたどりながら、『源氏物語』の話の展開のしかたや心理描写の巧みさ捉える。 ・長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容の的確に捉える。 ・古典の文章を読み、その内容や形式などに関して、発表したり議論したりする。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・我が国の文化の特質や、外国の文化との関係について理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。		源氏物語 【知識及び技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力等】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】・学習課題に沿って話の展開や構成を整理し、進んで内容の理解を深めようとしている。・学習課題に沿って描写や表現に着目し、粘り強く登場人物の心理について理解を深めようとしている。				10
2 学 期	古体詩 【知識・技能】・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。・古典の作品や文章に表れている。言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深める。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める。・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】・全体の構成に留意しつつ、詩にこめられた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを進んで読み取ろうとする。	・構成に留意して作品を鑑賞し、詩に表れた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを読み取る。 ・漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容の的確に捉える。 ・漢詩の特徴について理解を深める。 ・漢詩に表れる表現の特色について理解を深める。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 ・訓読のきまりについて理解を深める。		古体詩 【知識・技能】・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。・古典の作品や文章に表れている。言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力等】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】・全体の構成に留意しつつ、詩にこめられた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを進んで読み取ろうとしている。				8
	『源氏物語』と『白氏文集』 【知識・技能】・古典の作品や文章に表れている。言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深める。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める。・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】・作品の成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえて古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。・関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。 【学びに向かう力、人間性等】・『長恨歌』と『源氏物語』桐壺の巻と粘り強く読み比べ、登場人物や物語の展開などの類似点を指摘しようとする。	・『長恨歌』と、この作品から影響を受けて書かれた『源氏物語』桐壺の巻と読み比べ、登場人物や物語の展開などの類似点を探る。 ・作品の成立背景や他作品との関係をふまえて内容を解釈する。 ・複数の作品や文章を読み比べ、論述したり発表したりする。 ・作品を評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。 ・我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 ・読書の意義と効用について理解を深める。		『源氏物語』と『白氏文集』 【知識・技能】・古典の作品や文章に表れている。言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力等】・作品の成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえて古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。・関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。 【学びに向かう力、人間性等】・『長恨歌』と『源氏物語』桐壺の巻と粘り強く読み比べ、登場人物や物語の展開などの類似点を指摘しようとしている。				10
	定期考査							1

2 学 期	無名草子	【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。・古典を読むために必要な語句の量を増やすことについて理解を深める。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう態度・人間性等】・二人の女性作家に関する人物評の構成や内容を粘り強く整理し、理解を深める。	・著名な作品の女性作者二人を二百年後に批評した文章を読んで、歴史の伝承のしかたの一端に触れる。 ・評論という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の文章や文章の構成・展開のしかたについて理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。		【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。・古典を読むために必要な語句の量を増やすことについて理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう態度・人間性等】・二人の女性作家に関する人物評の構成や内容を粘り強く整理し、理解を深めようとしている。	○	○	○	10
	讀校典日記	【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深める。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう態度・人間性等】・学習の見通しをもって中世の日記を読み、進んで話の展開や登場人物の心理について理解を深めようとする。	・重病の天皇に仕えた日々を克明に記した日記を読んで、場面を的確に捉え、人々の心情を読み取る。 ・日記という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文語のきまりについて理解を深める。		【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。・古典を読むために必要な語句の量を増やすことについて理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう態度・人間性等】・学習の見通しをもって中世の日記を読み、進んで話の展開や登場人物の心理について理解を深めようとしている。	○	○	○	10
	語家の文章 「医家談笑」「売柑者言」「為学」	【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深める。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える。・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深める。 【学びに向かう態度・人間性等】・積極的に読解を読み、欧陽脩と蘇軾があげた東泉の例について、材料と効能をそれぞれ説明しようとする。・蘇軾の発言の意図と、それを聞いた欧陽脩が「大笑」した理由を推して考えようとする。・積極的に読解を読んで、「柑」を売る者の主張を整理するとともに、作者が「黙然無以応」となった理由を説明しようとする。・作者は「柑」の話を通して何を述べようとしたのかを、進んで考えようとする。・積極的に読解を読み、作者が蜀の辺境に住む二僧の語を取り上げた意図を説明しようとする。・「昏・庸」「聡・敏」が学ぶ者の態度に及ぼす影響の意を整理するとともに、作者は学問において何が重要だと考えているかを進んで説明しようとする。	・医家の効能に関する二人の会話を読み、欧陽脩があげた例と、それに対して蘇軾が返し例の意味を理解する。 ・作者が買った「柑」の実態とそれを売る者の言い分を契機として、作者の目が行きつけられているかを読み取る。 ・対句を多用した対比的構造に注意しながら論理の展開を押さえ、学問を行う態度に関する作者の考えを読み取る。 ・随想、論説という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ・文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 ・訓読のきまりについて理解を深める。		【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【学びに向かう態度・人間性等】・積極的に読解を読み、欧陽脩と蘇軾があげた東泉の例について、材料と効能をそれぞれ説明しようとする。・蘇軾の発言の意図と、それを聞いた欧陽脩が「大笑」した理由を推して考えようとする。・積極的に読解を読んで、「柑」を売る者の主張を整理するとともに、作者が「黙然無以応」となった理由を説明しようとする。・作者は「柑」の話を通して何を述べようとしたのかを、進んで考えようとする。・積極的に読解を読み、作者が蜀の辺境に住む二僧の語を取り上げた意図を説明しようとする。・「昏・庸」「聡・敏」が学ぶ者の態度に及ぼす影響の意を整理するとともに、作者は学問において何が重要だと考えているかを進んで説明しようとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1		
	無名抄	【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典の文章や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深める。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。・必要に応じて書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。 【学びに向かう態度・人間性等】・学習の見通しをもって歌論を読み、和歌に関する多様な評価基準について積極的に理解を深めようとする。・俊恵の評価基準をふまえて、学習課題に沿って和歌を評価しようとする。	・和歌に関する多様な考え方の一端に触れ、俊恵が考える和歌の評価基準を理解する。 ・歌論という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文語のきまりについて理解を深める。		【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典の文章や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。・必要に応じて書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【学びに向かう態度・人間性等】・学習の見通しをもって歌論を読み、和歌に関する多様な評価基準について積極的に理解を深めようとしている。・俊恵の評価基準をふまえて、学習課題に沿って和歌を評価しようとしている。	○	○	○	9
	毎月抄	【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深める。・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深める。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう態度・人間性等】・学習の見通しをもって歌論を読み、本歌取りについて積極的に理解を深めようとする。	・定家为本歌取りについて具体的に考察した内容を読み取り、和歌に関する理解を深める。 ・歌論という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・本歌取りについて述べた古典の文章を読み、和歌の修辭について理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。		【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう態度・人間性等】・学習の見通しをもって歌論を読み、本歌取りについて積極的に理解を深めようとしている。	○	○	○	8
	史記の群像 「管鮑之交」	【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深める。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える。・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。 【学びに向かう態度・人間性等】・積極的に史伝を読み、管仲が斉の大夫に任命されるまでの経緯を整理するとともに、鮑叔を「鮑子」と呼んだときの管仲の心情を説明しようとしている。	・王位継承をめぐる戦いの経緯を人物関係とともに押さえ、鮑叔に分かれた友情の顛末を読み取る。 ・史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・作者の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 ・訓読のきまりについて理解を深める。		【知識・技能】・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力】・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【学びに向かう態度・人間性等】・積極的に史伝を読み、管仲が斉の大夫に任命されるまでの経緯を整理するとともに、鮑叔を「鮑子」と呼んだときの管仲の心情を説明しようとしている。	○	○	○	8
定期考査				○	○	○			
3 学 期	大試問演習		共通テスト・過去問演習、個別指導			○	○	○	29
						○	○	○	合計 140

教科 地理歴史 の目標：

科目 歴史総合演習 の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	B 単元 近代化と私たち(2)(3) 結び付く世界と日本の開国／国民国家と明治維新 【知識及び技能】 ・18世紀のアジア経済、産業革命、日本の開国を基に、アジア諸国と欧米諸国の関係の変容を理解している。 ・立憲体制と国民国家の形成、明治維新を基に、政治変革の特徴を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・工業化と欧米のアジア進出について、近代化による社会変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・近代化と私たちとの関わりについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	指導事項 ・18世紀のアジアの経済と社会 ・産業革命と交通・通信手段の革新 ・中国の開港と日本の開国 ・立憲体制と国民国家の形成 ・明治維新と諸改革 ・日本における近代化の特徴 ・帝国主義政策とアジア諸国の変容 【教材】 教科書、資料集、諸資料（史料・統計・写真など）	【知識・技能】 ・工業化と世界市場の形成、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容について理解している。 ・立憲体制と国民国家の形成における政治変革の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ・近代化に伴う社会の変化について、諸資料から情報を読み取り、事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・近代化と私たちとの関わりについて、見通しをもって学習に取り組む、課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	6
	B 単元 近代化と私たち(3) 帝国主義の展開とアジア諸国の変容 【知識及び技能】 ・列強の帝国主義政策とアジア諸国の動向を基に、植民地拡大とその対応を理解している。 ・諸資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・帝国主義政策の特徴、日清・日露戦争と東アジアの変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・帝国主義時代の歴史について、課題を主体的に追究しようとしている。	指導事項 ・帝国主義と列強の展開 ・世界分割と列強の対立 ・条約改正と日清戦争 ・日露戦争と国際関係の変動 ・アジア諸国の民族運動と近代化 【教材】 教科書、資料集、諸資料（史料・統計・地図など）	【知識・技能】 ・帝国主義政策の展開とアジア諸国の動向について理解している。 ・諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思考・判断・表現】 ・帝国主義政策の特徴や列強間の関係の変容について、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・帝国主義時代の歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	C 単元 国際秩序の変化や大衆化と私たち(2) 第一次世界大戦と大衆社会 【知識及び技能】 ・第一次世界大戦、ロシア革命、ヴェルサイユ体制を基に、総力戦の特徴と大戦後の国際秩序の変容を理解している。 ・諸資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・国際秩序の変化や大衆化に伴う社会変化を多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・第一次世界大戦前後の歴史について、課題を主体的に追究しようとしている。	指導事項 ・第一次世界大戦の展開と総力戦 ・ロシア革命とソヴィエト政権 ・国際協調体制とヴェルサイユ体制 ・アジア・アフリカ地域の民族運動 ・大衆社会の形成と社会運動 ・大正デモクラシーと政党政治 【教材】 教科書、資料集、諸資料（史料・統計・写真など）	【知識・技能】 ・総力戦の特徴と第一次世界大戦後の国際秩序の変容について理解している。 ・諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思考・判断・表現】 ・国際秩序の変化や大衆化について、諸資料から情報を読み取り、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・第一次世界大戦前後の歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	11
定期考査			○	○		1	

2 学 期	C 単元 国際秩序の変化や大衆化と私たち (3) 経済危機と第二次世界大戦 【知識及び技能】 ・世界恐慌、ファシズムの伸長、第二次世界大戦の展開を基に、国際秩序の変容と大衆の政治的役割の変化を理解している。 ・諸資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・世界恐慌から第二次世界大戦に至る過程について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・第二次世界大戦に至る過程について、課題を主体的に追究しようとしている。	指導事項 ・世界恐慌と各国の対応 ・ファシズムの台頭と国際協調の崩壊 ・満州事変と日中戦争 ・第二次世界大戦の展開 ・戦時下の社会と国民生活 ・大戦の終結と戦後処理 【教材】 教科書、資料集、諸資料（史料・統計・写真・映像など）	【知識・技能】 ・世界恐慌から第二次世界大戦に至る国際秩序の変容を理解している。 ・諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思考・判断・表現】 ・国際協調体制の動揺の要因、第二次世界大戦への過程について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・第二次世界大戦に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	D 単元 グローバル化と私たち(2) 冷戦と世界経済（戦後の国際秩序と日本の改革） 【知識及び技能】 ・冷戦の展開、脱植民地化、日本の民主化と独立回復を基に、戦後の国際秩序形成と日本の再建を理解している。 ・諸資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・戦後改革の特徴、冷戦下の国際秩序を多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・戦後の歴史について、課題を主体的に追究しようとしている。	指導事項 ・国際連合の成立と国際経済体制 ・冷戦の展開と集団防衛体制 ・核兵器開発と核軍拡競争 ・占領下の日本と民主化改革 ・日本国憲法の制定 ・占領政策の転換と日本の独立 ・アジア・アフリカ諸国の独立 【教材】 教科書、資料集、諸資料（史料・統計・写真など）	【知識・技能】 ・第二次世界大戦後の国際秩序の形成と日本の再建について理解している。 ・諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思考・判断・表現】 ・戦後改革の特徴、国際政治の変容について、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・第二次世界大戦後の歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3 学 期	D 単元 グローバル化と私たち(2)(3)(4) 世界秩序の変容と日本／現代的な諸課題の形成と展望 【知識及び技能】 ・冷戦下の地域紛争、日本の高度経済成長、冷戦終結、グローバル化の進展を基に、現代世界の特徴を理解している。 ・諸資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・グローバル化の進展と現代的な諸課題について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・グローバル化と私たちとの関わりについて、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	指導事項 ・冷戦下の地域紛争と第三世界 ・日本の高度経済成長と社会の変容 ・石油危機と世界経済の再編 ・冷戦の終結とソ連の崩壊 ・グローバル化の進展と課題 ・現代日本の諸課題 ・持続可能な社会の実現に向けて 【教材】 教科書、資料集、諸資料（史料・統計・写真・映像など）	【知識・技能】 ・冷戦の終結、グローバル化の進展と現代世界の特徴について理解している。 ・諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【思考・判断・表現】 ・グローバル化の進展と現代的な諸課題の形成について、主題を設定し、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グローバル化と私たちとの関わりについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

武蔵野北高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

地理歴史 科目 発展日本史

教 科： 地理歴史科

科 目： 発展日本史

単位数 6 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 『詳説日本史探究』（山川出版社） ）

教科 地理歴史科

の目標：

【知 識 及 び 技 能】	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それをもとに議論したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

科目 発展日本史

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ③新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代背景を踏まえて考察する。	第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	【知識・技能】 村落や都市の支配の変化、を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。 【思考・判断・表現】 織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	○	○	○	14
	①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立	【知識・技能】 織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。 【思考・判断・表現】 織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	5
	①幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ②被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。	2 幕藩社会の構造	【知識・技能】 幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 【思考・判断・表現】 新たな支配制度のもとにおける人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察し、そのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○	○	1
	①17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ②幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ③経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。	3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	【知識・技能】 諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳期に至る政治の推移について理解している。 【思考・判断・表現】 陸上・水上における交通や流通の発達と、農業・工業・商業などの発達との関連を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 幕藩体制が安定していく中での経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17世紀の文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	20
	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②江戸中期に確立した洋学や国学、新たな文化で展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にもなる幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ③欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕府の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ④化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	【知識・技能】 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。 【思考・判断・表現】 幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	25
	定期考査			○	○		1

2 学 期	①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 ③幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。	第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	【知識・技能】 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。 【思考・判断・表現】 日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。	○	○	○	10
	①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。	第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	【知識・技能】 明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 【思考・判断・表現】 国内体制を欧米の水準に合わせる事が改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	10
	①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 ③ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。	第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	【知識・技能】 日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 【思考・判断・表現】 大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	15
	①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。 ③伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ④労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。	第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発展 3 市民生活の変容と大衆文化	【知識・技能】 産業の発達背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。 【思考・判断・表現】 学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1

武蔵野北 高等学校 令和 8 年度（3 学年用） 教科 地理歴史 科目 発展世界史

教 科： 地理歴史 科 目： 発展世界史 単位数： 6 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 詳説「世界史探究」山川出版社 ）

教科 地理歴史 の目標： 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 発展世界史 の目標： 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準			知	思	態	配 当 時 数
			知識	思考	態度				
1 学 期	①イスラーム世界の広がりとそのそれぞれの地域の特徴を理解している。 ②十字軍など他地域との接触や与えた影響について、内容を多角的、多面的に捉えて考察し、理解している。	第Ⅱ部第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	各イスラーム王朝の特徴を捉え、それぞれの歴史や文化の展開を理解している。	・十字軍を双方の視点から捉えて、どのような戦いであったのかを考察し捉えている。 ・イスラームの優れた文物について、どのような点で優れ、ほかの地域に影響を与えたのかを考察して理解している。	・イスラーム世界について興味・関心を持って学ぼうとする姿勢が見られる。 ・発問に積極的に答え、授業に主体的に参加している。	○	○	○	12
	①中世における教会権威の高まりと十字軍の実施について、どのように展開し、どのような結末へと結びついたのかを理解している。 ②商業の復活と都市の発達を地理的な位置から理解を深め、中世都市がどのように変化していったのかを理解している。 ③ビザンツ帝国とスラヴ人の国家について、どのように変化し、統合や滅亡をしていったのかを捉えている。 ④封建社会の衰退と王権の伸張の過程を理解し、イギリス、フランス、スペイン、ポルトガルがどのように国力を伸張していったのかを理解している。	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	・西欧中世ヨーロッパにおいて、封建諸侯が没落して国王の力が伸張していったのかを理解している。 ・東欧での諸国家の動きを、ビザンツ帝国の盛衰を踏まえて理解している。	・十字軍を西欧の視点で捉え、なぜ失敗したのかを考察する。 ・教皇権の変化に着目し、どうして失墜したのかを考察する。 ・なぜ商業が復活し、都市が形成されたのか、どう展開したのかを考察して理解している。 ・封建社会の衰退がどのような原因で起こったのかを考察して理解している。	・西欧封建社会の変容と東欧国家の興亡について、興味・関心を持って学ぼうとする姿勢が見られる。 ・発問に積極的に答え、授業に主体的に参加している。	○	○	○	24
	①宋の特徴と北方また西方の民族との関係を捉え、どのように展開したのかを理解している。 ②モンゴル帝国の形成と東西交易の活発化について理解している。 ③元の支配の特徴をおさえている。 ④ティムール帝国の興亡を理解している。 ※間に中間考査1時間を含む	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	・宋の建国とその支配の特徴と、契丹、女真、チベットとの関係を理解している。 ・モンゴルの征服活動と支配について理解している。 ・元の支配について、ほかの北方民族と比較して考察し捉えている。	・どうして宋は文治主義をとったのか、なぜ宋は北方または西方の民族に譲歩したのかを考察して理解している。 ・モンゴルの大帝が形成することができたのはなぜかを考え理解している。 ・元の支配について、ほかの北方民族と比較して考察し捉えている。	・宋やモンゴルの歴史について、興味・関心を持って学ぼうとする姿勢が見られる。 ・発問に積極的に答え、授業に主体的に参加している。	○	○	○	14
	①明の成立とその諸政策を捉え、また交易はどんな体制を行ったのかを理解する。 ②明朝後期の社会、文化を理解する。 ③大航海時代とポルトガル、スペインの進出を地理的な位置を踏まえて理解する。 ④中南米の古代文明とスペイン人の征服について、どのようにして征服され植民地にされたのかを理解している。	第9章 大交易・大交流の時代	・明朝の諸政策、交易体制を理解する。 また明朝後期の様子を理解する。 ・大航海時代の航路や開拓を理解する。 ・中南米の古代文明の展開とスペイン人の征服活動を理解する。	・洪武帝の政治の特徴を捉える。また永楽帝でどうして大きく変わったのかを考察する。 ・大航海時代がなぜ起こり、どう展開したのかを、地図を通して判断し理解を深める。 ・中南米の古代文明がなぜ滅ぼされたのかを考察して理解している。	・明、大航海時代、中南米の古代文明について、興味・関心を持って学ぼうとする姿勢が見られる。 ・発問に積極的に答え、授業に主体的に参加している。	○	○	○	18
	①オスマン帝国の成立とその拡大の過程、繁栄を理解している。 ②サファヴィー朝とムガル帝国の支配とその支配下の社会と特徴について理解している。 ③清の建国と康熙・乾隆時代の繁栄、また清代の社会について、理解している。	第10章 アジアの諸帝国の繁栄	・オスマン帝国の拡大の過程を各スルタンの治世とともに理解している。 ・サファヴィー朝、ムガル帝国の支配を理解している。 ・清の建国と繁栄を理解している。	・アンカラの戦い後になぜオスマン帝国は最盛期を迎えることができたのかを考察し捉えている。 ・イラン=イスラーム文化、インド=イスラーム文化の特徴を捉えている。 ・清朝が漢民族を支配するためにどのような政策を行ったのかを考察し捉えている。	・西・南アジアのイスラーム世界の強国や清について、興味・関心を持って学ぼうとする姿勢が見られる。 ・発問に積極的に答え、授業に主体的に参加している。	○	○	○	16
	①ルネサンスの文芸復興がなぜ起こったのかを捉え、また文学、美術、科学、政治思想などでどのような変化が起こり、どのような作品や思考、技術がなされたのかを理解している。 ②ルターとカルヴァンの宗教改革の特徴を捉え、どのように展開し、広まっていったのかを理解している。	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向～ルネサンスと宗教改革～	・ルネサンスの成立を理解し、文学、美術、技術、政治思想などの代表的な人物や作品などを理解している。 ・ルターとカルヴァンの宗教改革の展開について理解している。	・ルネサンスがなぜ起こったのかを捉えている。また文学や美術、技術、政治思想などのどこが新しいのかを理解している。 ・ルターとカルヴァンの宗教改革の共通点と相違点を判断し、後世への影響を考察している。	・ルネサンスや宗教改革について、興味・関心を持って学ぼうとする姿勢が見られる。 ・発問に積極的に答え、授業に主体的に参加している。	○	○	○	14
	定期考査					○	○		1

[illegible]

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 数学 科目 数学ⅠA演習①②

教科： 数学 科目： 数学ⅠA演習①② 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 6 組 自由選択受講者

使用教科書： （ ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し数学的に表現・処理する技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	問題を的確に数学的に表現し数理的に考察、過程や結論を批判的に判断する力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】	数学の活用、数学的論拠に基づく判断、問題解決の考察を深め評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学ⅠA演習①② の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、場合の数と確率、整数の性質等の活用、図形の性質について基本概念・原理・法則を体系的に理解し事象を数学化し、数学的解釈・表現・処理することのできる技能を身につける。	命題や条件に着目し、数や式を多面的にみて目的に応じた変形をする力、図形の性質、計量を論理的に考察し表現する力、関数関係を的確に表現する力、データを適切な手法で分析する力で問題を解決し、過程や結論を批判的に考察し判断する力を身につける。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力、図形の性質を見だし、論理的に考察する力を養う。	よさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 数と式 【知識及び技能】 (1)数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算を身に着ける。 (2)二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深める。 (3)不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 (2)不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができる。 (3)日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を解く方法を考察することができる。 (4)問題解決に活用することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 式の計算 実数 1次不等式 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 (1)数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算を身に付けたか。 (2)二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深められたか。 (3)不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができるか。 【思考・判断・表現】 (1)問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができるか。 (2)不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができるか。 (3)日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を解く方法を考察することができるか。 (4)問題解決に活用することできるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えているか。	○	○	○	3
	第2章 集合と命題 【知識及び技能】 基本概念・原理・法則を体系的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 集合 命題 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 基本概念・原理・法則を体系的に理解させる。 【思考・判断・表現】 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えているか。	○	○	○	2
	第6章 場合の数と確率 第1節 場合の数 【知識及び技能】 (1)和の法則、積の法則を利用して場合の数を求めることができる。 (2)起こりうる場合の数をもれなく重複なく数えることができる。 (3)順列の考えを理解し、場合の数を効率よく正確に求めるための基礎的な力を身につけている。 (4)起こりうる場合を整理し、順列の考えを用いて、場合の数を正確に求めることができる。 (5)順列の公式を用いて、場合の数を正確に求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)和の法則、積の法則が場合の数を数えるときの元になっていることに気づくことができる。 (2)場合の数を考えるに当たって、順序を考えると否かに気づくことができる。 (3)場合の数の考え方をを用いて適切に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えた。	・指導事項 集合と要素の個数 場合の数 順列 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 (1)和の法則、積の法則を利用して場合の数を求めることができるか。 (2)起こりうる場合の数をもれなく重複なく数えることができるか。 (3)順列の考えを理解し、場合の数を効率よく正確に求めるための基礎的な力を身につけている。 (4)起こりうる場合を整理し、順列の考えを用いて、場合の数を正確に求めることができる。 (5)順列の公式を用いて、場合の数を正確に求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)和の法則、積の法則が場合の数を数えるときの元になっていることに気づくことができるか。 (2)場合の数を考えるに当たって、順序を考えると否かに気づくことができるか。 (3)場合の数の考え方をを用いて適切に表現することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えたか。	○	○	○	7
	定期査			○	○		1

第3章 2次関数 【知識及び技能】 (1)二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 (2)二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 (3)二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 (1)二次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察することができる。 (2)二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 2次関数とグラフ 2次関数の値の変化 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 (1)二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解できたか。 (2)二次関数の最大値や最小値を求めることができるか。 (3)二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解できたか。 【思考・判断・表現】 (1)二次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察することができるか。 (2)二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えているか。	○	○	○	10
第3章 2次関数 【知識及び技能】 二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。 【思考力・判断力・表現力等】 2次不等式を多面的にみて目的に応じた変形をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 2次方程式と2次不等式 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができるか。 【思考・判断・表現】 2次不等式を多面的にみて目的に応じた変形をすることができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えているか。	○	○	○	10
第5章 データの分析 【知識及び技能】 (1)分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解する。 (2)コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりする。 (3)具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 (1)データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察できる。 (2)目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現できる。 (3)不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりできる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差 2つの変量の間の関係 仮説検定の考え方 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 (1)分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解できたか。 (2)コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができるか。 (3)具体的な事象において仮説検定の考え方を理解することができるか。 【思考・判断・表現】 (1)データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察できるか。 (2)目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現できるか。 (3)不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えているか。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1

2 学 期	第6章 場合の数と確率 第2節 確率 【知識及び技能】 (1)場合の数を求め、これを用いて確率を計算する方法を理解し、具体的な事象の確率を求めるための基礎的な知識を身につけている。 (2)確率の基本性質を理解し活用する知識を身につけている。 (3)場合の数を求め、これを用いて確率を考慮することができる。 (4)確率の基本性質を使って、和事象や余事象の確率を求めることができる。 (5)独立な試行と反復試行について理解し、基礎的な知識を身につけている。 (6)2つの独立な試行における2つの事象が同時に起こる確率を求めることができる。 (7)具体的な試行において独立な試行であることを見抜き、その事象の確率を求めることができる。 (8)反復試行の確率の公式を用いて、具体的な反復試行における確率を求めることができる。 (9)根元事象の個数に着目して、条件つき確率は、すべての根元事象の起こる確率が等しければ、場合の数の数え上げに帰着して考えられるという知識を身につけている。 (10)確率の乗法定理を用いて確率を求める具体的な問題を解決することができる。 (11)期待値の意味を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)確率の基本性質を導く過程を考察することができる。 (2)2つの独立な試行における2つの事象が同時に起こる確率は、事象の確率の積になる。この公式を導く過程を考察することができる。 (3)反復試行の確率の公式を導く過程を考察することができる。 (4)条件つき確率は、すべての根元事象の起こる確率が等しければ、場合の数の数え上げに帰着して考えられることに気づく。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 事象と確率 確率の基本性質 独立な試行と確率 条件付き確率 研究／原因の確率 期待値 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 (1)場合の数を求め、これを用いて確率を計算する方法を理解し、具体的な事象の確率を求めるための基礎的な知識を身につけているか。 (2)確率の基本性質を理解し活用する知識を身につけているか。 (3)場合の数を求め、これを用いて確率を考慮することができるか。 (4)確率の基本性質を使って、和事象や余事象の確率を求めることができるか。 (5)独立な試行と反復試行について理解し、基礎的な知識を身につけているか。 (6)2つの独立な試行における2つの事象が同時に起こる確率を求めることができるか。 (7)具体的な試行において独立な試行であることを見抜き、その事象の確率を求めることができるか。 (8)反復試行の確率の公式を用いて、具体的な反復試行における確率を求めることができるか。 (9)根元事象の個数に着目して、条件つき確率は、すべての根元事象の起こる確率が等しければ、場合の数の数え上げに帰着して考えられるという知識を身につけているか。 (10)確率の乗法定理を用いて確率を求める具体的な問題を解決することができるか。 (11)期待値の意味を理解しているか。 【思考・判断・表現】 (1)確率の基本性質を導く過程を考察することができるか。 (2)2つの独立な試行における2つの事象が同時に起こる確率は、事象の確率の積になる。この公式を導く過程を考察することができるか。 (3)反復試行の確率の公式を導く過程を考察することができるか。 (4)条件つき確率は、すべての根元事象の起こる確率が等しければ、場合の数の数え上げに帰着して考えられることに気づくか。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができたか。	○	○	○	7
	第4章 図形と計量 【知識及び技能】 (1)鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。 (2)三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解する。 (3)正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 三角比 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 (1)鋭角の三角比の意味と相互関係について理解しているか。 (2)三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解しているか。 (3)正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができるか。 【思考・判断・表現】 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができるか。 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養っているか。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1

[illegible]

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 数学 科目 発展数学ⅠA演習①②

教科： 数学 科目： 発展数学ⅠA演習①② 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 6 組 自由選択受講者

使用教科書： （ キートレーニング 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し数学的に表現・処理する技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	問題を的確に数学的に表現し数理的に考察、過程や結論を批判的に判断する力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】	数学の活用，数学的論拠に基づく判断，問題解決の考察を深め評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 発展数学ⅠA演習①② の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、場合の数と確率、整数の性質等の活用、図形の性質について基本概念・原理・法則を体系的に理解し事象を数学化し、数学的解釈・表現・処理することのできる技能を身につける。	命題や条件に着目し、数や式を多面的にみて目的に応じた変形をする力、図形の性質、計量を論理的に考察し表現する力、関数関係を的確に表現する力、データを適切な手法で分析する力で問題を解決し、過程や結論を批判的に考察し判断する力を身につける。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力、図形の性質を見だし、論理的に考察する力を養う。	よさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 数と式 【知識及び技能】 (1)数を実数まで拡張する意義を理解し，簡単な無理数の四則計算を身に着ける。 (2)二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深める。 (3)不等式の解の意味や不等式の性質について理解し，一次不等式の解を求めることができる。 (4) 基本概念・原理・法則を体系的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)問題を解決する際に，既に学習した計算の方法と関連付けて，式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 (2)不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができる。 (3)日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，一次不等式を解く方法を考察することができる。 (4)問題解決に活用することができる。 (5)集合の考えを用いて論理的に考察し，簡単な命題を証明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 式の計算 実数 1次不等式 集合 命題 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1 台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 (1)数を実数まで拡張する意義を理解し，簡単な無理数の四則計算を身に付けたか。 (2)二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深められたか。 (3)不等式の解の意味や不等式の性質について理解し，一次不等式の解を求めることができるか。 (4) 基本概念・原理・法則を体系的に理解させる。 【思考・判断・表現】 (1)問題を解決する際に，既に学習した計算の方法と関連付けて，式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができるか。 (2)不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができるか。 (3)日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，一次不等式を解く方法を考察することができるか。 (4)問題解決に活用することができるか。 (5) 集合の考えを用いて論理的に考察し，簡単な命題を証明することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えているか。	○	○	○	12
	第3章 2次関数 【知識及び技能】 (1)二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 (2)二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 (3)二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)二次関数の式とグラフとの関係について，多面的に考察することができる。 (2)二つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 2次関数とグラフ 2次関数の値の変化 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1 台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 (1)二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解できたか。 (2)二次関数の最大値や最小値を求めることができるか。 (3)二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解できたか。 【思考・判断・表現】 (1)二次関数の式とグラフとの関係について，多面的に考察することができるか。 (2)二つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えているか。	○	○	○	13
	中間考查			○	○		1

第4章 図形と計量 【知識及び技能】 (1)鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。 (2)三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解する。 (3)正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 三角比 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 (1)鋭角の三角比の意味と相互関係について理解しているか。 (2)三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解しているか。 (3)正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができるか。 【思考・判断・表現】 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができるか。 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えているか。	○	○	○	7
第5章 データの分析 【知識及び技能】 (1)分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解する。 (2)コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりする。 (3)具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察できる。 (2)目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現できる。 (3)不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりできる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指導事項 データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差 2つの変量の間の関係 仮説検定の考え方 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 (1)分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解できたか。 (2)コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができたか。 (3)具体的な事象において仮説検定の考え方を理解することができたか。 【思考・判断・表現】 (1)データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができるか。 (2)目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現できるか。 (3)不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養えているか。	○	○	○	10
期末考查			○	○		1

[illegible]

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学ⅡBC演習

教科： 数学 科目： 数学ⅡBC演習 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組 必修選択受講者

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し数学的に表現・処理する技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	問題を的確に数学的に表現し数理的に考察、過程や結論を批判的に判断する力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】	数学の活用、数学的論拠に基づく判断、問題解決の考察を深め評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学ⅡBC演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分、数列、統計的な推測、ベクトルの考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	論理的に考察する力、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察する。離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を考察したりする。問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って、統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第8章 式と証明 【知識及び技能】 (1) 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 (2) 多項式の除法や分式式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (1) 式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け、多面的に考察することができる。 (2) 実数の性質や等式の性質、不等号の性質などをもとに、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 事象を式と証明の考えを用いて考察することのよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 (2) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導事項 二項定理 多項式の除法 分式式の計算 恒等式 等式・不等式の証明 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 等式の性質を用い、等式を証明することができる。 不等式の性質を用い、不等式を証明することができる。 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 【思考力・判断力・表現力】 二項定理を等式の証明に活用することができる。 適した方法を用いることによって等式を証明することができる。 適した方法を用いることによって不等式を証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 二項係数の関係に興味をもち、考察しようとするか。 等式や不等式の証明を通して、数学の論証に理解を深めようとするか。 相加平均・相乗平均の大小関係の有用性に、興味・関心をもつ。	○	○	○	8
	第9章 複素数と方程式 【知識及び技能】 (1) 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 (2) 2次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 (1) 方程式を多面的に考察することができる。 (2) 剰余の定理、高次方程式論理的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 事象を方程式の考えを用いて考察することのよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 (2) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導事項 複素数とその計算 2次方程式の理論 剰余の定理・因数定理 高次方程式 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識・技能】 判別式を利用して、2次方程式の解を判別することができる。 解と係数の関係を用いて、対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 剰余の定理を利用して、余りを求めることができる。 因数定理を利用することにより、高次方程式を解くことができる。 【思考力・判断力・表現力】 判別式を用い、解の種類を判別することを理解している。 解と係数の関係を利用して、解の配置問題を理解している。 余りに関する問題を理解している。 3次方程式の解と係数の関係を用い、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 2次方程式の解に関する種々の問題を、判別式や解と係数の関係を利用して考察しようとする。 剰余の定理を用い余りに関する問題に関心を持ち、考察することができる。 3次方程式の解と係数に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。	○	○	○	8

第10章 図形と方程式 【知識及び技能】 (1)座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。 (2)座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 (3)軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 (4)簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 (2)数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1)事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 (2)問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善する。	・指導事項 点と直線 曲線と直線 軌跡と領域 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 (1)平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を求められる。 (2)座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 (3)軌跡を求めることができる。 (4)不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)座標平面上の図形を方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察できる。 (2)数学的に捉え、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1)問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 (2)問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
第11章 三角関数 【知識及び技能】 (1)三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 (2)三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解する。 (3)三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)三角関数に関する様々な性質について考察する。 (2)三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察する。 (3)数学的に捉え、問題を・解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりする。 (4)三角関数の加法定理から新たな性質を導く。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1)事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 (2)問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導事項 三角関数(1) 三角関数(2) ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 (1)三角関数のグラフの特徴について理解している。 (2)三角関数の相互関係などの性質を理解している。 (3)三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 (3)数学的に捉え、問題を・解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 (3)三角関数の加法定理から新たな性質を導ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1)事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。 (2)問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	8
第12章 指数関数・対数関数 【知識及び技能】 (1)指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 (2)対数の意味とその基本的な性質について理解し対数の計算をする。 (3)対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)指数と対数を相互に関連付けて考察する。 (2)指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 (3)問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりする。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1)事象を指数関数・対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断する。 (2)問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導事項 指数関数 対数関数 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	第5章 指数関数と対数関数 【知識及び技能】 (1)指数法則を用いて数や式の計算できる。 (2)指数関数のグラフの特徴について理解できる。 (3)対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算できる。 (4)対数関数のグラフの特徴について理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)指数と対数を相互に関連付けて考察できる。 (2)指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に理解できる。 (3)事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 (1)事象を指数関数・対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断できる。 (2)問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善できる。	○	○	○	8

2 学 期	第13章 微分法・積分法 【知識及び技能】 (1) 微分係数や導関数の定義について理解する。 (2) 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかける。 (1) 不定積分及び定積分を求める。 【思考力、判断力、表現力等】 (1) 関数とその導関数との関係について理解する。 (2) 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察する。 (3) 数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 (2) 事象を微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断する。	・指導事項 導関数と接線 関数の値の変化 微分法の応用 不定積分・定積分 面積 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 (1) 微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求められる。 (2) 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかける。 (1) 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (1) 関数とその導関数との関係について考察することができる。 (2) 関数の局所的な変化に着目し数学的に捉え、問題を解決できる。 (1) 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 (1) 事象を微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断出来る。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善できる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	第14章 数列 【知識及び技能】 (1) 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求める。 (2) いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解する。 (3) 漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりする。 (4) 数学的帰納法について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 (1) 事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察する。 (2) 事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用する。 (3) 自然数の性質を見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断を試みる。 (2) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善を試みる。 事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断を試みる。	・指導事項 等差数列・等比数列 種々の数列 戦果式と数列 数学的帰納法 数列の応用 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 (1) 等差数列と等比数列を理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 (2) いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。 (3) 漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 (4) 数学的帰納法について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 (1) 事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 (2) 事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。 (3) 自然数の性質を見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断する。 (2) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善する	○	○	○	14
	第15章 統計的な推測 第2章 統計的な推測 【知識及び技能】 (1) 標本調査の考え方、と確率変数と確率分布について理解する。 (2) 二項分布と正規分布の性質や特徴について理解する。 (3) 正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 (1) 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察する。 (2) 母集団の特徴や傾向を推測する。 (3) 標本調査の方法や結果を批判的に考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 事象を統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断を試みる。 (2) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善を試みる。	・指導事項 統計的な推測 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 (1) 標本調査の考え方について理解している。 (2) 確率変数と確率分布について理解している。 (3) 二項分布と正規分布の性質や特徴について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 (1) 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1) 事象を統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 (2) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1

3 学 期	第16章 ベクトル ベクトル 【知識及び技能】 (1)ベクトル、平面および空間の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (2)数学的な表現の工夫について認識を深めている。 (3)事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力を身に付けている。 (2)図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力を身に付けている。 (3)数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 (2)問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導事項 ベクトル ベクトルと平面図形 ベクトルと空間図形 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	【知識及び技能】 (1)概念や原理・法則を体系的に理解している。 (2)数学的な表現の工夫について認識を深めた。 (3)積極的に数学を活用し、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとする。 【思考力、判断力、表現力等】 (1)演算法則やその図形的な意味を理解している。 (2)図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察できる。 (3)数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (1)粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとする。 (2)問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。	○	○	○	16
	数学ⅡBCのまとめと復習 【知識及び技能】 今までの総合 【思考力、判断力、表現力等】 今までの総合 【主体的に学習に取り組む態度】 問題演習をする	指導事項 数学ⅡBC全範囲 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	数学ⅡBCのまとめと復習 【知識及び技能】 数学ⅡBCの基本的な知識と技能を習得できているか。 【思考力、判断力、表現力等】 数学ⅡBを用いて、思考、判断、表現ができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題演習を積極的に取り組んでいるか。				10
	定期考査			○	○		1
	数学ⅡBCのまとめと復習 【知識及び技能】 今までの総合 【思考力、判断力、表現力等】 今までの総合 【主体的に学習に取り組む態度】 問題演習をする	指導事項 数学ⅡBC全範囲 ・教材 教科書 補助教材 プリント ・一人1台端末の活用 解説動画の活用	数学ⅡBCのまとめと復習 【知識及び技能】 数学ⅡBCの基本的な知識と技能を習得できているか。 【思考力、判断力、表現力等】 数学ⅡBを用いて、思考、判断、表現ができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題演習を積極的に取り組んでいるか。	○	○	○	27
							合計 140

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 理科 科目 物理基礎演習

教科： 理科 科目： 物理基礎演習 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書： （ 数研出版「物理基礎」 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 速度と加速度 【知識及び技能】 ・等速直線運動についてx－t 図とv－t 図の特徴と、そのグラフがもたらす情報を理解させる。動いている物体から見た他の物体の速度が相対速度であることを示し、相対速度の式を理解させる。また、学習状況に応じて、「発展」で「平面上の速度の合成・速度の分解・速度の成分」、「平面上の相対速度」についても扱う。 ・直線運動における加速度の定義を理解させる。等加速度直線運動における3つの式を理解させ、その具体的な運用に慣れさせる。また、学習状況に応じて、「発展」で「平面運動の加速度」についても扱う。 ・自由落下や鉛直投射などの式が書けるようにし、その運用に慣れさせる。学習状況に応じて、「発展」で「水平投射の式」、「斜方投射」まで扱う。 【思考力、判断力、表現力等】 ・等速直線運動、等加速度直線運動する物体のようすについて説明できるようにする。 ・等加速度直線運動する物体のようすについて説明できるようにする。 ・加速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、それをもとに物体の運動のようすを考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・速さ、時間、進む距離についての関係に興味をもち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解する。 ・落下する物体の運動に興味をもち、自由落下する物体の運動、鉛直投射された物体の運動の表し方を理解する。	・指導事項 「速度」 「等速直線運動」 「相対速度」 「加速度」 「等加速度直線運動」 「落体の運動」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・記録タイマーを正しく用いて、重力加速度の大きさを測定 すし、 9.8m/s^2 前後の値になることを確認する。	【知識・技能】 ・等速直線運動の式およびx－t図、v－t 図を理解できている。 ・合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。 ・等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用することができる。 ・自由落下や鉛直投射において、与えられた時刻における高さや速度を与える式の運用ができる。 【思考・判断・表現】 ・等速直線運動、等加速度直線運動について、運動のようすを説明できる。 ・速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。 ・重力加速度の大きさを測定し、文献などで調べた値と比較し、文献値と測定値の間に生じた誤差の原因について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・速さ、時間、進む距離についての関係に興味をもち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。 ・物体のスタート直後の速さの比較によって、加速度を学ぶ意味を理解しようとしている。 ・重力加速度の大きさを測定する実験に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	6
	B 運動の法則 【知識及び技能】 ・力は、物体の変形や運動状態の変化の原因となるものであり、向きと大きさをもったベクトル量であることを理解させる。 ・慣性の法則では、物体にはたらく力の合力が0であるとき、物体は等速直線運動（または静止）を続けることを理解させる。運動方程式では、物体は力を受けると加速すること、また、生じる加速度の大きさは質量に反比例し、力の大きさに比例することを、実験をもとにして理解させる。 ・液体や気体の中では物体は圧力を受けることや、圧力の式とその単位について理解させる。また、液体や気体中にある物体には浮力がはたらくこと、および、浮力の大きさについてアルキメデスの原理が成りたつことを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・フックの法則とばね定数の意味を理解させ、グラフからばね定数を読み取らせる。 ・慣性の法則、運動方程式を理解させ、問題解決にあたって式の運用を正しくできるようにする。 ・水中にある物体に、どのような水圧が加わるかを正しく理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・物体の運動状態は、受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心を持たせる。 ・日常の現象から水中や空気中で圧力があることに関心を寄せ、それらの圧力はどのようにしてはかることができるか考えさせる。	・指導事項 「力とそのはたらき」 「力のつりあい」 「運動の法則」 「摩擦を受ける運動」 「液体や気体から受ける力」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・摩擦角を理解し、静止摩擦係数を求める実験から係数値を計算で求める。	【知識・技能】 ・重力、垂直抗力、摩擦力、糸が引く力、弾性力について、理解できている。 ・圧力を求める式を理解できている。 ・注目する物体にはたらく力が指摘でき、つりあいの式が立てられる。 ・さまざまな運動をしている物体について、運動方程式を立てて考えることができる。 ・水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。 【思考・判断・表現】 ・フックの法則とばね定数の意味を理解し、グラフからばね定数を読み取ることができる。 ・慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。 ・水中にある物体には、どのような水圧が加わるか、またどのような浮力がはたらくかを正しく理解し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・物体の運動状態は、受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち、理解しようとしている。 ・日常の現象などを通して、水中や空気中で圧力があることに関心を寄せ、それらの圧力はどのようにしてはかることができるか考えようとしている。 ・静止摩擦係数を調べる実験に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	4

	C 仕事とエネルギー 【知識及び技能】 ・仕事の定義を正確に把握させる。特に、物体の移動方向に垂直にはたらく力は仕事をしないこと、移動の向きと力の向きが逆のときは仕事は負になることについて具体的に理解させる。 ・運動エネルギーの式$\frac{1}{2} \times mv^2$を導けるようにする。また、物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいことを理解させる。 ・高い所にある物体は他の物体に対して仕事をすることから、重力による位置エネルギーをもっていることを理解させる。 ・力学的エネルギー保存則は、物体にはたらく力が保存力だけのとき、あるいは保存力以外の力がはたらいでもその力が物体に対して仕事をしないときに成り立つことを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・仕事の原理を理解し、道具を用いたときに必要な仕事ができるかを説明できるようにする。 ・運動エネルギーの変化は仕事に等しいことから物体の運動を説明できるようにする。 ・位置エネルギーについて説明することができるようになる。 ・力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・日常用いる「仕事」と物理でいうところの「仕事」について違いを理解しようとしている。 ・位置エネルギーについて、仕事をする能力を秘めていることに興味を持たせる。 ・力学的エネルギー保存則の実験に主体的に取り組ませる。	・指導事項 「仕事」 「運動エネルギー」 「位置エネルギー」 「力学的エネルギーの保存」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・糸振り子を利用して、力学的エネルギー保存について確認する。	【知識・技能】 ・仕事、仕事率を求めることができる。 ・物体に対して力がはたらいでも、仕事が0のときもあることを理解している。 ・運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解している。 ・物体が基準点まで移動するときに保存力がする仕事、位置エネルギーであることを理解している。 ・力学的エネルギー保存則が成り立つための条件が整っているかどうかを判断できる。 【思考・判断・表現】 ・「仕事の原理」を理解し、道具を用いたときに必要な仕事ができるかを説明できる。 ・運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを用いて物体の運動を説明できる。 ・重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーについて説明することができる。 ・力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解し、物理でいうところの「仕事」について理解しようとしている。 ・位置エネルギーについて、仕事をする能力を「秘めて」いることに興味をもち、理解しようとしている。 ・力学的エネルギー保存則の実験に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	4
	D 熱 【知識及び技能】 ・温度は、原子や分子の熱運動の激しさを示すものであり、熱運動が停止するときの温度を0とする絶対温度について理解させる。 ・熱の移動がエネルギーの移動であることを説明し、熱がエネルギーの一形態であることを理解させる。熱容量や比熱の定義を理解させたうえで、温度をΔT [K] 変化させるのに必要な熱量を、熱容量や比熱を用いて表すことができるようにする。また、外部との熱のやりとりがない場合、熱量が保存されることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・温度や熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明する。 ・日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとする。 ・熱と仕事の関係について興味関心をもち、理解しようとする。	・指導事項 「熱と温度」 「熱と仕事」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・仕事による水温の上昇実験についてグラフから、仕事と熱の関係を推測する。	【知識・技能】 ・温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などを正しく理解している。 ・熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。 ・物質が、固体→液体、液体→気体になる際の、熱のやりとりについて理解している。 ・仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。 ・熱機関と熱機関の効率について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・温度や熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明できる。 ・日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとしている。 ・熱と仕事の関係について興味関心をもち、理解しようとしている。	○	○	○	4
2 学 期	E 波の性質 【知識及び技能】 ・波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを理解する。 ・媒質がどのような振動状態であるかを表す量である位相について扱い、同位相、逆位相についても理解させる。 ・媒質の振動の方向に対して垂直な方向へ伝わる波形が横波、媒質の振動と同じ方向へ伝わる波形が縦波である。つる巻きばねを用いて観察させ、理解させる。 ・波の重ねあわせの原理では、2つの波がある点に同時に達したときの変位は、2つの波が単独に達したときの変位の和であることを理解させる。 ・定在波の媒質は、場所によって振幅が異なることを理解させる。 ・「発展」で「波の波面、波の干渉、波の反射と屈折、波の回折」を扱う。 【思考力、判断力、表現力等】 ・波の伝わるようすを、グラフで表現する。 ・定在波を発生させる条件を正しく理解させ、説明できるようにする。 ・固定端と自由端での波の反射について、その違いを明確に説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・身近な波の現象に興味をもたせ、波の発生原理や基本事項について理解しようとする。 ・波が衝突や反射するときどのようなようになるか、興味を持って、自分の考えを述べるようにする。	・指導事項 「波と媒質の振動」 「波の伝わり方」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・波動のグラフを描き、波の伝わる速さについて、基本法則を導き出す。	【知識・技能】 ・波の発生原理や基本事項を理解している。 ・縦波と横波の違いを理解している。 ・定在波の生じるしくみを理解している。 ・ウェーブマシンの実験・観察を通して、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。 ・定在波を発生させる条件を正しく理解し、説明できる。 ・固定端と自由端での波の反射について、その違いを明確に説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。 ・波が衝突や反射するときどのようなようになるか、興味を持って、自分の考えを述べることができる。	○	○	○	4

	F 音 【知識及び技能】 - 空間を伝わる音波は空気を媒質とする縦波であることを理解させる。 - うなりの現象を実験によって観察させ、その理由を理解させる。 - 弦の振動は、弦の両端を節とする定在波であることを、観察をもとにして理解させる。 - 気柱の固有振動は開端を腹、閉端を節とする定在波であることを把握させる。 - 振動体にその固有振動の周期と等しい周期で変化する外力を加えると、振動体は大きく振動するようになる（共振・共鳴）ことを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 - オシロスコープによる音波の波形図を用いて、音の3つの要素について、自分の言葉で説明する。 - 日常的な現象を熟と仕事の関係を踏まえて説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 - 弦や気柱の振動の実験や、振り子の共振の実験において、主体的に取り組む。 - モノコードにより弦の振動と音階の関係について、自分の考えを述べる	・指導事項 「音の性質」 「発音体の振動と共振・共鳴」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・オシロスコープによる音波の波形図から振動のグラフを理解する。 ・気柱共鳴装置を用い、気柱の共鳴音からおんさの振動数や音速を求めることができるようにする。	【知識・技能】 - 日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解している。 - うなりについて、音の干渉の知識を用いて定量的に扱うことができる。 - 弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 音を伝える際、空気などの媒質が必要であることを説明できる。 - 音の3つの要素について説明できる。 - うなりとはどのような現象であるかを説明できる。 - 弦楽器の音にはどのようなことが関係しているかを、これまでの学習内容を踏まえて考えることができる。 - 倍音とはどのような振動数の音であるかを説明できる。 - 気温と管楽器からの音の振動数にはどのような関係があるかを考察し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 身近な音の現象に興味をもち、基本事項について理解しようとしている。 - 弦楽器や管楽器について、どのようにして音の高さを変えているかについて、自分の考えを述べることができる。 - 音に関する問いかけについて、自分の言葉で表そうとしている。	○	○	○	8
	G 音のドップラー効果 【知識・技能】 - 波源と観測者が相対的に運動しているときには、観測者が受ける振動数は波源本来の振動数とは異なることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 - 音源が動く場合には、観測者の運動に関係なく波長が変化することを理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 - 音のドップラー効果に興味をもち、なぜそのような現象が起こるか理解しようとし、演習に主体的に取り組む。	・指導事項 「音のドップラー効果」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器	【知識・技能】 - ドップラー効果の式を用いて、観測者が聞く音の振動数を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 - 運動している音源から出た音の波長が、音源の前方と後方でどのように変化するかを説明することができる。 - 観測者が動く場合（音源は静止）のドップラー効果がなぜ起きるかを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 身近な現象である音のドップラー効果に興味をもち、なぜそのような現象が起こるか理解しようとしている。	○	○	○	3
3学期	H 電気 【知識・技能】 - 物体の帯電するしくみを理解させる。 - 電圧、電流、電気抵抗の間には、オームの法則が成り立つことを理解させる。 - 導体、不導体、半導体の違いについて理解する。 - オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解する。 - 導体の両端に電圧を加えると、導体内にある自由電子は導体内に生じる電場により加速されて電流が生じ、加速された自由電子は導体中の陽イオンに衝突して運動エネルギーを陽イオンに与え、陽イオンの熱運動が激しくなって導体の温度が上がることを理する。 - 直線電流、円形電流、ソレノイドのつくる磁場の向きを判断する。 - 交流電圧の基本について理解する。 - 変圧器と送電の基本について理解する。 - 電磁波の振動数と波長の関係を理解する。また、ラジオ放送やテレビ放送、携帯電話など、身近に使われている電磁波の周波数についても把握する。 【思考力、判断力、表現力】 - ガラス棒を絹などでこすった際に、それぞれどのような帯電状態になるかを説明できる。 - オームの法則を理解し、I-Vグラフより、金属の抵抗値を求めることができる。 - 電気回路の接続ごとの電流、電圧の大きさについて適切に理解しており、説明できる。 - ジュール熱について、電流と電圧とどのような関係にあるか説明できる。 - 電流と磁場の関係について説明できる。 - 交流電圧の基本について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 身近な静電気現象について、なぜそうなるかを述べるができる。 - 電気回路の抵抗の接続のしかたを変えたとき、抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのようなるかについて、主体的に考えることができる。 - 直流と交流の違いや送電時の工夫について、主体的に考えることができる。	・指導事項 「電気の性質」 「電流と電気抵抗」 「電気とエネルギー」 「電流と磁場」 「交流と電磁波」 ・教材 教科書 プリント 問題集 ICT機器 ・オームの法則を実験により定量的に検証する。また、実験から、物体の長さや断面積と抵抗値の関係について理解する。	【知識・技能】 - 物体の帯電するしくみを理解している。 - 導体・不導体、半導体の違いについて理解している。 - オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解している。 - 電力量と電力の意味（およびその公式）について理解している。 - 直線電流、円形電流、ソレノイドのつくる磁場の向きを判断することができる。 - 交流電圧の基本について理解している。 - 変圧器と送電の基本について理解している。 - 電磁波の振動数と波長の関係を理解している。 また、ラジオ放送やテレビ放送、携帯電話など、身近に使われている電磁波の周波数についても把握している。 【思考力、判断力、表現力】 - ガラス棒を絹などでこすった際に、それぞれどのような帯電状態になるかを説明できる。 - オームの法則を理解し、I-Vグラフより、金属の抵抗値を求めることができる。 - 電気回路の接続ごとの電流、電圧の大きさについて適切に理解しており、説明できる。 - ジュール熱について、電流と電圧とどのような関係にあるか説明できる。 - 電流と磁場の関係について説明できる。 - 交流電圧の基本について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 身近な静電気現象について、なぜそうなるかを述べることができる。 - 電気回路の抵抗の接続のしかたを変えたとき、抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのようなるかについて、主体的に考えることができる。 - 直流と交流の違いや送電時の工夫について、主体的に考えることができる。	○	○	○	2
							合計
							35

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 理科 科目 化学基礎演習

教 科： 理科 科 目： 化学基礎 単位数： 1 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 啓林館 i 版 化学基礎 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	観察、実験の事例から、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験の事例から、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元：物質量と化学反応式 原子量・分子量・式量 物質量と質量・気体の体積 【知識及び技能】原子量・分子量・式量の意味を理解し、物質量と質量・気体の体積の関係がわかる。 【思考力、判断力、表現力等】原子量・分子量・式量について説明し、物質量と質量・気体の体積の関係から物質量や質量・気体の体積を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 原子量・分子量・式量 物質量と質量・気体の体積 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】原子量・分子量・式量の意味を理解し、物質量と質量・気体の体積の関係がわかる。 【思考力、判断力、表現力等】原子量・分子量・式量について説明し、物質量と質量・気体の体積の関係から物質量や質量・気体の体積を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	2
	溶液と濃度 【知識及び技能】溶液と濃度について理解し、溶液の調製方法についてわかる。 【思考力、判断力、表現力等】溶液の調製について説明し、濃度から物質量や質量等を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 溶液と濃度 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】溶液と濃度について理解し、溶液の調製方法についてわかる。 【思考力、判断力、表現力等】溶液の調製について説明し、濃度から物質量や質量等を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	2
	化学反応式 化学変化の量的関係 【知識及び技能】化学反応式について理解し、化学変化の量的関係についてわかる。 【思考力、判断力、表現力等】化学変化を化学反応式で表し説明し、反応式から物質量や質量・気体の体積等を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 化学反応式 化学変化の量的関係 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】化学反応式について理解し、化学変化の量的関係についてわかる。 【思考力、判断力、表現力等】化学変化を化学反応式で表し説明し、反応式から物質量や質量・気体の体積等を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	2
	定期考査			○	○		1
	単元：化学と物質 【知識及び技能】純物質と混合物の違い、分離精製について理解し、元素検出法や単体化合物の違い、熱運動と物質の三態についてわかる。原子の構造や電子配置、イオンの生成、周期表について理解し、電子配置とイオン生成の関係についてわかる。 【思考力、判断力、表現力等】混合物の分離や元素の検出、三態変化について、判断できる。原子の構造と構成粒子と元素の関係や、電子配置とイオン生成の関係が判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 イオン結合 イオン結晶とその性質 共有結合と分子 配位結合 電気陰性度と極性 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】純物質と混合物の違い、分離精製について理解し、元素検出法や単体化合物の違い、熱運動と物質の三態についてわかる。原子の構造や電子配置、イオンの生成、周期表について理解し、電子配置とイオン生成の関係についてわかる。 【思考力、判断力、表現力等】混合物の分離についてや元素の検出、三態変化について、判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。原子の構造と構成粒子と元素の関係や、電子配置とイオン生成の関係が判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	2
	単元：化学結合 イオン結合とその性質 共有結合と分子配位結合 電気陰性度と極性 共有結合の結晶 金属結合 結晶の分類 【知識及び技能】イオン結合の仕組みとその性質、共有結合と分子について理解し、イオン結合と共有結合の違いについてわかる。配位結合の仕組みや電気陰性度と極性の関係を理解する。共有結合の結晶、金属結合の結晶について理解し、4種類の結晶の違いについてわかる。 【思考力、判断力、表現力等】イオン結合と共有結合の違いについて、判断できる。配位結合の仕組みを説明し、電気陰性度から極性の有無を判断できる。共有結合の結晶、金属結合の結晶について説明し、4種類の結晶の分類を判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 イオン結合 イオン結晶とその性質 共有結合と分子 配位結合 電気陰性度と極性 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】イオン結合の仕組みとその性質、共有結合と分子について理解し、イオン結合と共有結合の違いについてわかる。配位結合の仕組みや電気陰性度と極性の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】イオン結合と共有結合の違いについて説明し、判断できる。配位結合の仕組みを説明し、電気陰性度から極性の有無を判断できる。共有結合の結晶、金属結合の結晶について理解し、4種類の結晶の違いについてわかる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	2
	定期考査			○	○		1

	単元：酸と塩基 酸と塩基の定義 水溶液のpH 【知識及び技能】酸と塩基の定義、水素イオン濃度とpHについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】酸と塩基の定義や電離度から水素イオン濃度、pHを説明し導くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 酸と塩基の定義 電離度 水溶液のpH ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】酸と塩基の定義、水素イオン濃度とpHについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】酸と塩基の定義や電離度から水素イオン濃度、pHを説明し導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	2
	中和と塩 中和反応の量的関係 【知識及び技能】中和反応と塩の性質の関係や中和反応の量的関係について理解し、中和滴定の操作を理解し身につける。 【思考力、判断力、表現力等】塩の性質や中和滴定の操作について説明し、量的関係から溶液の濃度などを導くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 中和と塩 中和反応の量的関係 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】中和反応と塩の性質の関係や中和反応の量的関係について理解し、中和滴定の操作を理解し身につける。 【思考力、判断力、表現力等】塩の性質や中和滴定の操作について説明し、中和反応の量的関係から溶液の濃度などを導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	2
	単元：酸化還元反応 酸化還元反応の定義と酸化数 【知識及び技能】酸化還元反応の定義と酸化数について理解し、電子の出入りと酸化数の関係についてわかる。 【思考力、判断力、表現力等】酸化還元反応を酸化数と電子の出入りで説明し、酸化剤・還元剤を判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 酸化還元反応の定義 酸化数 酸化剤と還元剤 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】酸化還元反応の定義と酸化数について理解し、電子の出入りと酸化数の関係についてわかる。 【思考力、判断力、表現力等】酸化還元反応を酸化数と電子の出入りで説明し、酸化剤・還元剤を判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	2
	定期考査			○	○		1
	イオン化傾向と金属の反応 【知識及び技能】金属のイオン化傾向の違いによる反応性や金属の精錬について理解し、金属の反応性の違いがわかる。 【思考力、判断力、表現力等】金属のイオン化傾向から金属の反応や精錬方法を説明し、金属の反応を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 イオン化傾向 金属の酸化還元反応 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】金属のイオン化傾向の違いによる反応性や金属の精錬について理解し、金属の反応性の違いがわかる。 【思考力、判断力、表現力等】金属のイオン化傾向から金属の反応や精錬方法を説明し、金属の反応を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	3
2 学 期	酸化還元の利用(電池) 【知識及び技能】金属のイオン化傾向から電池の仕組みについて理解し、各電極の反応がわかる。 【思考力、判断力、表現力等】金属のイオン化傾向から電池の起電力の違いや電池の各電極の反応を考えて説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 酸化還元の利用(電池) ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】金属のイオン化傾向から電池の仕組みについて理解し、各電極の反応がわかる。 【思考力、判断力、表現力等】金属のイオン化傾向から電池の起電力の違いや電池の各電極の反応を考えて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	4
	単元：まとめと総合演習問題 【知識及び技能】化学基礎の総まとめ問題を解き知識および技能の基本を理解定着する。 【思考力、判断力、表現力等】化学の総まとめ問題を解くことにより、思考・判断したことを表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 総合問題演習 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】化学基礎の総まとめ問題を解き知識および技能の基本を理解定着する。 【思考力、判断力、表現力等】化学の総まとめ問題を解くことにより、思考・判断したことを表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	単元：まとめと総合演習問題 【知識及び技能】化学基礎の総まとめ問題を解き知識および技能の基本を理解定着する。 【思考力、判断力、表現力等】化学の総まとめ問題を解くことにより、思考・判断したことを表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	・指導事項 総合問題演習 ・教材 教科書・プリント・レポート・小テスト ・ICT・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】化学基礎の総まとめ問題を解き知識および技能の基本を理解定着する。 【思考力、判断力、表現力等】化学の総まとめ問題を解くことにより、思考・判断したことを表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習する化学現象や理論について、調べようとし、日常生活や社会と関連していることに気づく。	○	○	○	3
						合計	35

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3 学年） 教科 理科 科目 生物基礎演習

教 科： 理科 科 目： 生物基礎演習 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書： （ 東京書籍 生物基礎 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 【知識及び技能】生物の基本的な特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】地球上で生活する生物の多様性は、進化の結果生じたものであることを考える。 【学びに向かう力、人間性等】相同器官を比較し共通祖先から由来した生物は共通の特徴をもつことを見いだす。	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】生物の基本的な特徴を理解している。 【思考・判断・表現】地球上で生活する生物の多様性は、進化の結果生じたものであることを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】相同器官を比較し共通祖先から由来した生物は共通の特徴をもつことを見いだすことができるなど、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	3
	1編 生物の特徴 2章 生物とエネルギー 【知識及び技能】真核細胞と原核細胞の構造について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】単細胞生物と多細胞生物について理解し、生物の細胞はどのように生命を維持しているのか考える。 【学びに向かう力、人間性等】ウイルスが非生物として扱われている理由について考える。	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】真核細胞と原核細胞の構造について理解している。 【思考・判断・表現】単細胞生物と多細胞生物について理解し、生物の細胞はどのように生命を維持しているのか説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	3
	生体とATP・生体内の化学反応 呼吸と光合成 【知識及び技能】ATPが呼吸や光合成などの生体内でのエネルギーの受け渡しに必ず関係していることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】生物が、同化によってエネルギーを蓄え、異化によってエネルギーをとり出していることについて考える。 【学びに向かう力、人間性等】ATPを利用した衛生管理など、ATPを利用した技術があることを知る。	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】ATPが呼吸や光合成などの生体内でのエネルギーの受け渡しに必ず関係していることを理解している。 【思考・判断・表現】生物が、同化によってエネルギーを蓄え、異化によってエネルギーをとり出していることを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	3
	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 【知識及び技能】環境要因と環境形成作用の関係についてや森林の階層構造と光環境の関係について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】植生遷移がどのような条件で進行するのか考える。 【学びに向かう力、人間性等】火山島の溶岩流跡地の変遷など、植生は時間とともに変化するすることについて考える。	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】環境要因と環境形成作用の関係についてや森林の階層構造と光環境の関係について理解している。 【思考・判断・表現】植生遷移は土壌や光環境という条件で進行することを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	3

2 学 期	4編 生物の多様性と生態系 遷移とバイオーム 【知識及び技能】世界のさまざまな地域の気候と植生の関係を調べ、バイオームが遷移を経て成立していることを見いだして理解する。 【思考力、判断力、表現力等】環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを見出す。 【学びに向かう力、人間性等】世界・日本の各バイオームについて気候や構成する生物種を知り遷移と関連付けて整理、理解しようとする。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】世界のさまざまな地域の気候と植生の関係を調べ、バイオームが遷移を経て成立していることを見いだして理解している。 【思考・判断・表現】環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	3
	2編 遺伝子とのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 【知識及び技能】遺伝は現象、遺伝情報を担うのが遺伝子、遺伝子の本体はDNAであることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】ゲノムについて理解する。 【学びに向かう力、人間性等】DNAの構造が遺伝子として機能するために優れていることを見出す。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】親の形質が子に引き継がれることを遺伝といい、遺伝情報を担うのが遺伝子であり、遺伝子の本体はDNAであることを理解している。 【思考・判断・表現】生命の維持に必要な1組のDNAをゲノムといい、真核生物の細胞には両親に由来する2組のゲノムが含まれることを説明する。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	3
	2編 遺伝子とのはたらき 2章 遺伝情報とタンパク質 【知識及び技能】セントラルドグマ・転写・翻訳について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】転写・翻訳の過程を説明している図を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】遺伝子突然変異について理解し、考察する。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】セントラルドグマ・転写・翻訳について理解している。 【思考・判断・表現】転写・翻訳の過程を図示し説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	3
	3編 ヒトの体の調節 1章 体内環境と情報伝達 【知識及び技能】体内環境と体液の関係について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考えて説明する。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】体内環境と体液の関係について理解する。 【思考・判断・表現】恒常性について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	3
3 学 期	神経系による情報伝達 ホルモンによる情報伝達 【知識及び技能】自律神経系・内分泌系のはたらきを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】自律神経系・内分泌系が相互作用してヒトの体内環境の恒常性に機能していることを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】血糖濃度の調節について理解し糖尿病について考察する。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを理解する。 【思考・判断・表現】体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	3
	3編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき 【知識及び技能】自然免疫・適応免疫について分類や特性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】自然免疫・適応免疫について分類や特性、しくみはたらく過程について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】免疫記憶・免疫の異常について理解し考察する。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】自然免疫・適応免疫について分類や特性を理解している。 【思考・判断・表現】自然免疫・適応免疫について分類や特性、しくみはたらく過程について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	4
	4編 生物の多様性と生態系 2章 生態系と生物の多様性 【知識及び技能】種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】生態系サービスについて私たちの生活と関連付けて理解し考察する。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを理解している。 【思考・判断・表現】種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。	○	○	○	4
							合計
							35

武蔵野北高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 生涯スポーツ

教 科：保健体育 科 目： 生涯スポーツ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 大修館書店 新高等保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 生涯スポーツ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の主体的、合理的、計画的な実践に関する具体的な事項やスポーツの推進及び発展に寄与するための事項について理解しているとともに、生涯を通したスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けている。	スポーツの多様な実践と推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	生涯を通してスポーツと多様に関わりとともにスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう、運動の主体的、合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解するようにする。 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組む。 スポーツは、各ライフステージにおける身体的、心理的、社会的特徴に応じた多様な楽しみ方があることを知る。 【知識及び技能】 運動の主体的、合理的、計画的な実践に関する具体的な事項やスポーツの推進及び発展に寄与するための事項について理解しているとともに、生涯に適したスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 スポーツの多様な実践と推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通してスポーツと多様に関わりとともにスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう、運動の主体的、合理的、計画的な実践に主体的に取り組む態度を養う。	・指導項目 体づくり運動 体ほぐしの運動 各種スポーツ スポーツ概論 トレーニング理論	【知識及び技能】 スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解しているとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、それらを他者に伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組もうとしている。				70
3 学期						合計 70

【知識及び技能】	・2学年における指導との接続に留意しながら、英語コミュニケーションⅡで習得した能力を更に伸長させながら、英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を更に深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じてより適切に活用できる高度な技能の養成を更に図っていく。 ・英語の学習を通して、国際社会・言語・民族・学術分野に対する専門的な知識を習得しながら、既存の知識や技能と関連づけ、グローバル社会で活躍するための高度な国際理解の資質・能力を養う。 ・獲得した個別の技能が自分の経験や他の技能と統合され、未知の状況や高度な課題に対しても主体的・創造的に活用できる応用力を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	・英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで習得した能力を更に伸ばし、日常的な話題から学術的・社会的な話題・文化・人間・自然などについて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図・論理構成、暗示的な意味などを的確に理解し、これらを活用して批判的に分析・評価し、説得力のある形で表現したり伝え合ったりすることができる高度な力を養う。 ・外国語の背景にある文化・社会・歴史に対する深い理解を持ち、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的、創造的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	・「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において積極的に活用し、考えを形成・深化・発展させ、話したり書いたりして洗練された表現を繰り返し使用させ、「思考力、判断力、表現力等」の伸長を図ることで、生徒に高い自己効力感を持たせ、多様な価値観を尊重し、主体的・自律的に学習に取り組み、生涯にわたって英語力を向上させ続けようとする態度を一層向上させる。

科目 発展英語（上級）	の目標：	
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・2学年における指導との接続に留意しながら、英語コミュニケーションⅡで習得した能力を更に伸長させ、英語の音声・語彙・表現・文法・言語の働きなどについて深い理解を獲得するとともに、アカデミックな場面や複雑な社会的文脈において、これらの知識を的確かつ効果的に活用できる高度な技能を養成する。 ・英語の学習を通して、国際社会・言語・文化・学術分野に対する専門的な知識を習得し、批判的思考力を用いて既存の知識や技能と関連づけ、グローバル社会で活躍するための高度な資質・能力を養う。 ・獲得した技能を統合し、未知の状況や高度な課題に対しても、主体的・創造的に活用できる応用力を身に付ける。 ・難関大学入試（国公立大学二次試験・難関私立大学個別試験）において高得点を獲得できる実践的な英語力を養成する。	・外国語で論理的に表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化・歴史・社会構造を多角的に捉え、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて、複雑な情報を整理・分析しながら、独自の考えを形成し、説得力のある議論を構築することができるようにさせる。 【聞くこと】 ・学術的・社会的な話題に関して、自然な速度で話される複雑な内容聞き取り、話し手の意図・論理構成・暗示的な意味を正確に把握し、批判的に評価することができるようにさせる。 【読むこと】 ・学術論文・社説・評論文などの高度な英文を読み、論理展開を分析し、著者の主張・根拠・前提を批判的に評価することができるようにさせる。速読・精読の両方の技術を高度なレベルで習得させる。 【話すこと（やりとり）】 ・社会問題や学術的課題について、即興で論理的なディスカッションを行い、相手の意見に対して的確な反論や建設的な提案ができるようにさせる。 【話すこと（発表）】 ・複雑なテーマについて、論理的な構成で説得力のあるプレゼンテーションを行い、質疑応答にも適切に対応できるようにさせる。 【書くこと】 ・学術的なエッセイ・小論文を、明確な論理構成と適切な根拠を用いて執筆できるようにさせる。難関大学の自由英作文・要約問題に対応できる高度なライティング力を養成する。 ・難関大学入試の長文読解・英作文問題において高得点を獲得できる実践力を養成する。	・外国語の背景にある文化・社会・価値観に対する深い理解と敬意を持ち、異なる視点を尊重しながら、主体的・自律的に高度な外国語コミュニケーションを図ろうとする態度を養わせる。 ・「知識及び技能」を実際の学術的・社会的なコミュニケーションの場面において積極的に活用し、考えを深化・発展させ、より洗練された表現で発信することで、生徒に高い自己効力感を持たせ、生涯にわたって英語力を向上させ続けようとする態度を一層向上させる。 ・難関大学入試に向けて、計画的・継続的に学習に取り組み、困難な課題にも粘り強く挑戦する姿勢を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 時 数
			聞	読	話	説	書					
1 学 期	Chapter 1-8 【知識及び技能】 ・ターゲットである文法事項の深い理解と、アカデミックな場面での正確な運用 ・高度な言語機能の理解と複雑な場面に応じた適切な運用 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 ・本課の題材について、批判的に分析し、多角的な視点から考察を深めることができる。 ・本課の題材について、論理的に意見を構築し、説得力のある議論を展開できる。 [L] 本課の題材についての講義や討論を聞き、論理構成・主張・根拠を正確に把握し、批判的に評価することができる。 [R] 本課の題材に関する学術的な文章を読み、著者の論理展開を分析し、要旨を的確にまとめることができる。 [Sや] 本課の題材について、即興のディスカッションを行い、根拠に基づいた論理的な意見交換ができる。 [W] 本課の題材について、明確な論理構成と適切な根拠を用いて、説得力のあるエッセイを書くことができる。 ・難関大学入試（東大・京大・一橋・早慶等）の長文読解・英作文問題に対応できる実践力を養成する。	・本課の題材に関する学術的な講義やTEDトーク等を聴き、論理構成を分析しながら要点を把握し、ディスカッションを行う。 ・本課の題材に関する統計データやグラフを批判的に分析し、データに基づいた議論を展開する。 ・本課の題材に関する学術論文や評論文から、著者の主張・根拠・反論を読み取り、要約・分析する。 ・本課の題材について、賛否両論の立場から論理的なディベートを行う。 ・本課の題材について、アカデミックエッセイ（序論・本論・結論）の形式で論述する。 ・本課の題材についてのインタビューや討論から、話者の意図や暗示的な意味を聞き取る。 ・本課の題材について、資料を活用しながら説得力のあるプレゼンテーションを行う。 ・難関大学の過去問演習（長文読解・和訳・英作文）を通じて、実践的な解答技術を習得する。 ・本課のターゲットである高度な文法事項を用いて、洗練された英文を作成する。 ・パラグラフライティングの技術を習得し、論理的な文章構成力を養う。 ・難関大学入試の要約問題・自由英作文問題に対応できる力を養成する。	○	○	○		○	[知識] 本課のターゲットである高度な文法事項を深く理解し、適切に運用できる。 本課の題材に関する学術的な語彙・表現の意味や使い方を正確に理解している。 [技能] [L] 学術的な講義や討論を聴き、論理構成・主張・根拠を正確に聞き取り、批判的に評価する技能を身に付けている。 [R] 学術的な文章を読み、著者の論理展開を分析し、要旨を的確に把握する技能を身に付けている。 [Sや] 社会的・学術的な話題について、即興で論理的なディスカッションを展開する技能を身に付けている。 [W] 明確な論理構成と適切な根拠を用いて、説得力のあるアカデミックエッセイを書く技能を身に付けている。 [L] 本課の題材についての講義や討論から、論理構成・主張・根拠を正確に把握し、批判的に評価している。 [R] 本課の題材について、学術的な文章の論理展開を分析し、著者の意図や主張を的確に把握している。 [Sや] 本課の題材について、根拠に基づいた論理的な意見を述べ、相手の主張に対して的確に応答している。 [W] 本課の題材について、明確な論理構成と適切な根拠を用いて、説得力のあるエッセイを書いている。 [L] 学術的な内容についても、積極的に聴き取り、批判的に分析しようとしている。 [R] 複雑な英文についても、粘り強く読み解き、深い理解を得ようとしている。 [Sや] 高度な話題についても、積極的に自分の意見を述べ、建設的な議論に参加しようとしている。 [W] 論理的な文章を書くために、構成を工夫し、推敲を重ねて質の高い文章を完成させようとしている。 ・難関大学入試において高得点を獲得できる実践力を養成する。	○	○	○	30

[illegible]

【知識及び技能】	・2学年における指導との接続に留意しながら、英語コミュニケーションⅡで習得した能力を更に伸長させながら、英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を更に深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じてより適切に活用できる技能の養成を更に図っていく。 ・英語の学習を通して、国際社会・言語・民族に対する新しい知識を習得しながら、既存の知識や技能と関連づけ、国際理解のための資質・能力を養う。 ・獲得した個別の技能が自分の経験や他の技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる。
【思考力、判断力、表現力等】	・英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで習得した能力を更に伸ばし、日常的な話題から社会的な話題・文化・人間・自然などについて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 ・外国語の背景にある文化・社会・歴史に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	・「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現を繰り返し使用させ、「思考力、判断力、表現力等」の伸長を図ることで、生徒に自信をもたせ、他を受け入れ、個人の価値を尊重し、主体的・自律的に学習に取り組み、更に深化・発展させようとする態度を一層向上させる。

科目	発展英語（標準）	の目標：	
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・2学年における指導との接続に留意しながら、英語コミュニケーションⅡで習得した能力を更に伸長させながら、英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を更に深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じてより適切に活用できる技能の養成を更に図っていく。 ・英語の学習を通して、国際社会・言語・民族に対する新しい知識を習得しながら、既存の知識や技能と関連づけ、国際理解のための資質・能力を養う。 ・獲得した個別の技能が自分の経験や他の技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる。 ・大学入試共通テストや2次試験・個別入試などに対応できる力を養成する。		・外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することができるようになる。 【聞くこと】 ・日常的・社会的な話題に関して、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることを把握することができるようにさせる。 【読むこと】 ・日常的・社会的な話題に関して、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることを把握することができるようにさせる。 【話すこと（やりとり）】 ・日常的な話題に関して、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにさせる。原則としてここでのやり取りは即興で行う。また、社会的な話題に関して、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにさせる。 【話すこと（発表）】 ・日常的な話題に関して、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにさせる。また、社会的な話題に関して、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにさせる。 【書くこと】 ・日常的な話題に関して、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにさせる。また、社会的な話題に関して、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにさせる。 ・大学入試共通テストや2次試験・個別入試などに対応できる力を養成する。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養わせる。 ・「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現を繰り返して使用させ、「思考力、判断力、表現力等」の伸長を図ることで、生徒に自信をもたせ、他を受け入れ、個人の価値を尊重し、主体的・自律的に学習に取り組み、更に深化・発展させようとする態度を一層向上させる。 ・大学入試共通テストや2次試験・個別入試などに対応できる姿勢を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話	発	書					
1 学 期	Chapter 1-8 【知識及び技能】 ・ターゲットである文法事項 ・言語機能の理解と場面に応じた運用 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 ・本課の題材について、理解して考えを深めることができる。 ・本課の題材について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 【L】本課の題材についての対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら聞き取ることができる。 【R】本課の題材に関する談話を読み、概要や要点を把握することができる。 【Sや】本課の題材について、基本的な語句や文を用いて、与えられた表現を参考に自分の考えを話して伝え合うことができる。 【W】本課の題材について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えを書いて伝えることができる。 ・大学入試共通テストや2次試験・個別入試などに対応できる力を養成する。	・本課の題材に関する英語話者の体験について説明するモノローグの概要や要点を聞き取り、聞き取った内容を伝え合う。 ・本課の題材に関するグラフを見て、読み取ったことや考えたことについて話し合う。 ・本課の題材に関する談話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 ・本課の題材について意見や情報を交換する。 ・本課の題材に関する談話について、概要や要点を表に書いて整理したりしながら、書いてまとめる。 ・本課の題材についての対話から、概要や詳細を聞き取る。 ・本課の題材について、情報や意見を交換する。 ・本課の題材について、グループで話し合った内容を基に、情報や考えを書く。 ・本課のターゲットである文法事項を使って、自分の考えや行動について書く。 ・本課の題材について、概要を聞き取ったり読み取ったりする。 ・本課の題材について、自分自身の考えなどを伝え合う。 ・大学入試共通テストや2次試験・個別入試などに対応できる力を養成する。	○	○	○		○	【知識】 本課のターゲットである文法事項に関する事項を理解している。 本課の題材の中で使われている表現の意味や働きを理解している。 【技能】 【L】本課の題材について、対話の中での相づちをうつ表現や話の展開に注意しながら、対話を聞き取る技能を身に付けている。 【R】本課の題材について、本課のターゲットである文法事項や本文中で使われている表現に留意して、読み取る技能を身に付けている。 【Sや】本課の題材などについて、考える時間をかせぐ表現や例をあげる表現などを用いて、円滑に意見を交換する技能を身に付けている。 【W】本課の題材について、グループで話し合った内容を基に、情報や考えを書いて伝える技能を身に付けている。 【L】本課の題材について、対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら聞き取って捉えている。 【R】本課の題材について、理解を深めるために、本課の題材に関する談話を読み取り、概要や要点を把握している。 【Sや】本課の題材について、基本的な語句や文を用いて、考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 【W】本課の題材について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えを書いて伝えている。 【L】本課の題材についての対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら主体的に聞き取って捉えようとしている。 【R】本課の題材について理解を深めるために、本課の題材に関する談話を主体的に読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 【Sや】本課の題材について、基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えようとしていたりしている。 【W】本課の題材について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、主体的に情報や考えを書いて伝えようとしている。 ・大学入試共通テストや2次試験・個別入試などに対応できる力を養成する。	○	○	○	30

[illegible]

武蔵野北高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 情報 科目 情報Ⅰ 演習

教科： 情報 科目： 情報Ⅰ 演習 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 3 学年 F群G群

使用教科書：（ 実教7 情Ⅰ 705 最新情報Ⅰ ）

教科 情報 の目標：

【知識及び技能】	情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 情報Ⅰ 演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	情報社会の問題解決 【知識及び技能】 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 情報に関する法規や制度などについて、科学的に捉え考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。	・情報社会の現状・最新動向の把握 ・知的財産概要 ・身近な情報システム（POS、電子マネー等） ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 情報社会と人間との関わりについて考え、理解している。共通テストに向けた演習に取り組む。 【思考・判断・表現】 情報の特性を活用した事例と、情報の特性によって生じる事例を挙げることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知的財産を適切に活用し、主体的に創作活動に参画しようとしている。	○	○	○	3
	メディアの特性とコミュニケーション 【知識及び技能】 インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択できる。 【学びに向かう力、人間性等】 自らのメディア活用について振り返り、より効果的な表現や情報伝達ができるように改善する。	・メディアの種類と特性 ・インターネットにおけるコミュニケーション ・クリエイティブコモンズ	【知識・技能】 文字、図形、音声、静止画などの各表現メディア、情報メディア、伝達メディアの特性についてそれぞれ説明することができる。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションの形態や特性を考え、コミュニケーションの目的に沿った方法を選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 メディアから収集する情報を批判的に思考し、主体的に読み解こうとする態度を身に付けている。	○	○	○	3
	情報デザイン 【知識及び技能】 目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じ、情報デザインの考え方や方法を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 情報デザインの考え方や方法を用いて、目的や受け手の状況に応じた表現ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 情報デザインの考え方や方法に基づいて考えようと粘り強く取り組む態度を養う。	・情報バリアフリーについて ・ユニバーサルデザインについて ・プレゼンテーションソフトの活用 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 情報をわかりやすく伝達するための文字や図の表現の工夫、表やグラフ、配色の工夫など基本的な方法を理解している。 【思考・判断・表現】 情報伝達やコミュニケーションを促進するための情報デザインの工夫について、理解しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 説得力のあるプレゼンテーションを行うためのライドの工夫や技術などを理解するとともに、プレゼンテーションのメリットやデメリットを理解しようとしているか。	○	○	○	6
	コンピュータとデジタル化 【知識及び技能】 コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 数値・文字・音声・画像などのデジタル化された情報を、主体的かつ適切に取り扱える。	・コンピュータの構成 ・アナログとデジタル、進数 ・音声や画像のデジタル化 ・音声や画像処理ソフトの利用 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 コンピュータの構成や計算の仕組みについて説明することができる。 【思考・判断・表現】 情報量を適切な単位で表現したり、変換したりできる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報のデジタル化について、より深く理解しようとしている。CMSを利用した演習問題に取り組もうとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1

2 学 期	ネットワークとセキュリティ 【知識及び技能】 情報セキュリティの3つの基本的な考え方を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や状況に応じたネットワークを構成する情報機器の選択や接続を適切に判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 情報セキュリティを維持するための技術に関心を持ち、主体的に安全に情報を送受信するための仕組みを活用する。	・情報通信ネットワークの構成 ・パリティチェック ・情報セキュリティ ・暗号技術 等	【知識・技能】 情報セキュリティの3つの基本的な考え方について説明することができる。 【思考・判断・表現】 マルウェアや不正アクセスなどの情報セキュリティの脅威に対する対策について適切に判断し、対処することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 暗号の利用など、情報セキュリティを維持するための技術に関心を持ち、安全にネットワークを活用しようとしている。	○	○	○	5
	問題解決とデータ活用 【知識及び技能】 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、解決する過程や解決案を自ら評価し改善する。	・問題解決の手順 ・表計算ソフトの活用 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 データを蓄積、管理、提供する方法の仕組みや特徴について理解している。 【思考・判断・表現】 データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、評価し改善する。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報システムにより提供されるサービスや情報通信ネットワークを目的に応じて適切かつ効果的に活用しようとしている。CMSを利用した演習問題に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	問題解決とデータ活用 【知識及び技能】 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、解決する過程や解決案を自ら評価し改善する。	・データの可視化 ・データベースの活用 ・モデル化 ・シミュレーション ・PPDACサイクル ・相関係数 ・回帰分析	【知識・技能】 データを蓄積、管理、提供する方法の仕組みや特徴について理解している。 【思考・判断・表現】 データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、評価し改善しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報システムにより提供されるサービスや情報通信ネットワークを目的に応じて適切かつ効果的に活用しようとしている。CMSを利用した演習問題に取り組もうとしている。	○	○	○	3
	アルゴリズムとプログラミング 【知識及び技能】 アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 モデル化およびシミュレーションが社会の問題解決でどのように利用されているのかについて考え、適切なモデルを選択することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 シミュレーションを繰り返し、改善策の検討するなど、主体的にシミュレーションを用いて問題を解決しようとする。	・問題解決のためのアルゴリズム ・プログラム作成 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 アルゴリズムの基本制御構造（順次、選択、反復）の違いについて説明することができる。 【思考・判断・表現】 ・プログラミングの目的や実行するコンピュータの種類を考慮して適切なプログラミング言語を選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 具体的な事象のシミュレーションに関心を持ち、シミュレーションを用いた問題解決を意欲的に取り組もうとしている。CMSを利用した演習問題に取り組もうとしている。	○	○	○	4
3 学 期	定期考査			○	○		1
	確認テスト まとめレポート			○	○		2
							合計
							35

武蔵野北 高等学校 令和 8 年度（3 学年用） 教科 家庭 科目 フードデザイン

教 科： 家庭 科 目： フードデザイン 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 7実教 家庭703 フードデザイン ）

教科 家庭 の目標：

【知 識 及 び 技 能】	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、社会との関わりについて、衣食住、消費や環境などについて、理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 フードデザイン の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。	人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより食育の推進に他と協働して取り組むことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	栄養素の働きと食事計画 【知識及び技能】 五大栄養素の種類と働きについて理解を深めること。 【思考力、判断力、表現力等】 体の中でそれぞれの栄養素がどのような働きをしているのかを考えること。 【学びに向かう力、人間性等】 五大栄養素の種類と働き、栄養素の消化のしくみに関心を持つこと	・指導事項 栄養素のはたらき 食物の摂取と栄養 炭水化物 脂質 たんぱく質 ミネラル ビタミン ・教材 教科書、資料集、プリント等 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 五大栄養素の種類と働きについての知識を習得することができる。 【思考・判断・表現】 体の中でそれぞれの栄養素がどのような働きをしているのかを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 五大栄養素の種類と働き、栄養素の消化のしくみに関心を持とうとしている。	○	○	○	8
	料理様式と献立 【知識及び技能】 様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 目的に応じた適切な選択ができること。 【学びに向かう力、人間性等】 日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式についてそれぞれの特徴に関心を持つこと。	・指導事項 料理様式と献立 日本料理の様式と献立 西洋料理の様式と献立 中国料理の様式と献立 ・教材 教科書、資料集、プリント等 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 目的に応じた適切な選択ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式についてそれぞれの特徴に関心を持とうとしている。	○	○	○	4
	調理操作 【知識及び技能】 主な加熱操作と非加熱操作について食品の調理性や栄養的特徴などとかかわらせて理解できること。 日常食、行事食、供応食などの調理に必要な調理技術の基礎を身に付けることができること。 【思考力、判断力、表現力等】 調味、加熱やその他の調理操作が、料理の出来上がりに大きく影響することを実験を通して観察し、考察することができること。 【学びに向かう力、人間性等】 調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康など面から関心を持ち、学ぼうとする意欲が感じられること。	・指導事項 非加熱操作 加熱操作 加熱調理器具 調味の目的 調味をする段階 ・教材 教科書、資料集、プリント等 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 主な加熱操作と非加熱操作について食品の調理性や栄養的特徴などとかかわらせて理解できる。 日常食、行事食、供応食などの調理に必要な調理技術の基礎を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 調味、加熱やその他の調理操作が、料理の出来上がりに大きく影響することを実験を通して観察し、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康など面から関心を持ち、学ぼうとする意欲が感じられる。	○	○	○	12
	献立作成 【知識及び技能】 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理など、一連の流れを計画し実践ができること。 【思考力、判断力、表現力等】 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができること。 【学びに向かう力、人間性等】 食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられること。	・指導事項 日常食の献立の作成 日常食の献立作成の手順 供応食・行事食 テーマ設定と調理実習 和風献立、洋風献立、中国献立 ・教材 教科書、資料集、プリント等 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理など、一連の流れを計画し実践ができる。 【思考・判断・表現】 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1

2 学 期	食品の特徴と性質 【知識・技能】 食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を習得することができること。 【思考・判断・表現】 食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができること。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持つこと。	・指導事項 穀類、いも類、砂糖類、豆類、種実類、野菜類、くだもの類、きのこ類、海藻類、魚介類、肉類、卵類、牛乳・乳製品、油脂類など ・教材 教科書、資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を習得することができる。 【思考・判断・表現】 食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持つとしている。				8
	テーブルコーディネート 【知識・技能】 目的に応じたテーブルコーディネートができること。 【思考・判断・表現】 食器・盛り付け・テーブルクロス・照明などについて、目的に応じた選択ができること。 【主体的に学習に取り組む態度】 季節や行事、食事の目的などに応じて食卓を演出しようとする意欲・関心が感じられること。	・指導事項 テーブルコーディネートとは テーブルコーディネートの基本 ・教材 教科書、資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 目的に応じたテーブルコーディネートができる。 【思考・判断・表現】 食器・盛り付け・テーブルクロス・照明などについて、目的に応じた選択ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 季節や行事、食事の目的などに応じて食卓を演出しようとする意欲・関心が感じられる。				6
	献立作成 【知識及び技能】 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理など、一連の流れを計画し実践ができること。 【思考力、判断力、表現力等】 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができること。 【学びに向かう力、人間性等】 食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行うようとする意欲・関心が感じられること。	・指導事項 日常食の献立の作成 日常食の献立作成の手順 供応食・行事食 テーマ設定と調理実習 和風献立、洋風献立、中国献立 ・教材 教科書、資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理など、一連の流れを計画し実践ができる。 【思考・判断・表現】 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行うようとする意欲・関心が感じられる。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	料理様式と献立 【知識及び技能】 世界の食文化、日本の食文化の特徴を理解することができること。 【思考力、判断力、表現力等】 世界の食文化について調べ、特徴を分かりやすくまとめることができること。 【学びに向かう力、人間性等】 複数の書籍からの調べ学習を意欲的に取り組むことができること。	・指導事項 世界の食文化 日本の食文化 ・教材 教科書、資料集、プリント等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 世界の食文化、日本の食文化の特徴を理解することができる。 【思考・判断・表現】 世界の食文化について調べ、特徴を分かりやすくまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数の書籍からの調べ学習を意欲的に取り組むことができる。				4
							合計
							70

武蔵野北 高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 総合的な探究の時間 科目 総合的な探究の時間

教 科： 総合的な探究の時間 科 目： 総合的な探究の時間 単位数： 1 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ ）

教科 総合的な探究の時間	の目標：
【知 識 及 び 技 能】	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

科目 総合的な探究の時間 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	進路探究 【知識及び技能】 自身の進路について必要な知識を得る技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の将来について課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 進路学習に主体的に取り組む態度を養う。	・指導事項 進路探究 ・教材 模試、プリント等 ・一人1 台端末の活用 等 タブレットを用いて情報検索など	【知識・技能】 自身の進路について必要な知識を得る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 自身の将来について課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 進路学習に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	12
2 学 期	進路探究 【知識及び技能】 自身の進路について必要な知識を得る技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の将来について課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 進路学習に主体的に取り組む態度を養う。	・指導事項 進路探究 ・教材 模試、プリント等 ・一人1 台端末の活用 等 タブレットを用いて情報検索など	【知識・技能】 自身の進路について必要な知識を得る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 自身の将来について課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 進路学習に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	13
3 学 期	進路探究 【知識及び技能】 自身の進路について必要な知識を得る技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の将来について課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 進路学習に主体的に取り組む態度を養う。	・指導事項 進路探究 ・教材 模試、プリント等 ・一人1 台端末の活用 等 タブレットを用いて情報検索など	【知識・技能】 自身の進路について必要な知識を得る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 自身の将来について課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 進路学習に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	10
							合計
							35